

令和4年度（2022年度）

**冬季オリンピック・パラリンピック招致へ向けた市民対話事業
報告書**

令和5年5月

札幌市スポーツ局招致推進部

目次

1. 市民対話事業について-----	03
(1) 目的	--03
(2) 事業概要	--03
2. 各ワークショップでの意見まとめ-----	09
第1回 ワークショップ（札幌医科大学）	--09
第2回 ワークショップ（札幌ファッションデザイン専門学校 DOREME）	--13
第3回 ワークショップ（YOSAKOIソーラン祭り組織委員会）	--15
第4回 ワークショップ（YOSAKOIソーラン祭り組織委員会）	--20
第5回 ワークショップ（北星学園大学）	--24
第6回 ワークショップ（北海学園大学）	--27
第7回 ワークショップ（札幌大学）	--31
第8回 ワークショップ（北海道大学）	--33
第9回 ワークショップ（北海道スポーツ専門学校）	--37
第10回 ワークショップ（札幌市立大学）	--39
第11回 ワークショップ（札幌大学）	--43
第12回 ワークショップ（札幌大学）	--46
第13回 ワークショップ（札幌市立大学）	--48
第14回 ワークショップ（札幌国際大学）	--50
第15回 ワークショップ（北陸銀行琴似支店）	--54
第16回 ワークショップ（東海大学）	--56
第17回 ワークショップ（北海道情報専門学校）	--58
第18回 ワークショップ（経専北海道観光専門学校）	--61
3. 各ワークショップ アンケートの傾向-----	64

1. 市民対話事業について

(1) 目的

札幌市では、北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致活動を展開しており、昨年3月に実施した市民意向調査では、比較的高い割合で若者世代の支持を得る一方で、「わからない」と回答された方の割合が20代で高い傾向にありました。

札幌市としては、札幌の未来を担う若者世代が、北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会開催を契機とする2030年のまちの姿について思いを馳せ、魅力あふれるアイデアを出していただくことが、持続可能なまちづくりにとって大変有意義なことだと考えています。このような背景から、若者世代を対象としたワークショップを企画し、その開催に協力して下さる団体を広く募集の上、実施する運びとなりました。

本業務は、ワークショップを通じて頂戴したアイデアの一部を、「若い世代からの100のアイデア」として、北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要（案）更新版に盛り込み、また、市民のオリンピック・パラリンピックに対する意識と理解を高め、今後の招致機運醸成につなげていくことを目的としています。

(2) 事業概要

市民対話事業は、以下の団体、人数等により開催しました。

【第1回 ワークショップ】

実施団体名：札幌医科大学（Zoomによるオンライン形式）
開催日時： 令和4年8月25日（木） / 17時30分～19時00分
配信場所： 札幌市スポーツ局 ORE札幌ビル7階会議室C
参加者： 14名

【第2回 ワークショップ】

実施団体名：札幌ファッションデザイン専門学校 DOREME（対面形式）
開催日時： 令和4年9月15日（木） / 16時30分～18時00分
実施場所： 札幌ファッションデザイン専門学校 DOREME
参加者： 9名

【第3回 ワークショップ】

実施団体名：YOSAKOIソーラン祭り組織委員会（対面形式）

開催日時： 令和4年9月20日（火） / 18時00分～20時00分

実施場所： 札幌市役所12階大会議室4・5

参加者： 20名

【第4回 ワークショップ】

実施団体名：YOSAKOIソーラン祭り組織委員会（対面形式）

開催日時： 令和4年9月25日（日） / 10時00分～12時00分

実施場所： TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通

参加者： 27名

【第5回 ワークショップ】

実施団体名：北星学園大学（対面形式）

開催日時： 令和4年9月30日（金） / 13時00分～14時30分

実施場所： 北星学園大学

参加者： 10名

【第6回 ワークショップ】

実施団体名：北海学園大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月3日（月） / 16時00分～17時30分

実施場所： 北海学園大学

参加者： 29名

【第7回 ワークショップ】

実施団体名：札幌大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月11日（火） / 14時40分～16時10分

実施場所： 札幌大学

参加者： 16名

【第8回 ワークショップ】

実施団体名：北海道大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月12日（水） / 18時30分～20時00分

実施場所： 北海道大学

参加者： 28名

【第9回 ワークショップ】

実施団体名：北海道スポーツ専門学校（対面形式）

開催日時： 令和4年10月13日（木） / 15時00分～16時30分

実施場所： 北海道スポーツ専門学校

参加者： 12名

【第10回 ワークショップ】

実施団体名：札幌市立大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月14日（金） / 10時40分～12時10分

実施場所： 札幌市立大学

参加者： 36名

【第11回 ワークショップ】

実施団体名：札幌大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月17日（月） / 9時00分～10時30分

実施場所： 札幌大学

参加者： 21名

【第12回 ワークショップ】

実施団体名：札幌大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月18日（火） / 9時00分～10時30分

実施場所： 札幌大学

参加者： 22名

【第13回 ワークショップ】

実施団体名：札幌市立大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月18日（火） / 17時45分～19時15分

実施場所： 札幌市立大学

参加者： 10名

【第14回 ワークショップ】

実施団体名：札幌国際大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月21日（金） / 10時40分～12時10分

実施場所： 札幌国際大学

参加者： 62名

【第15回 ワークショップ】

実施団体名：北陸銀行琴似支店（対面形式）

開催日時： 令和4年10月21日（金） / 16時00分～17時30分

実施場所： 北陸銀行琴似支店

参加者： 13名

【第16回 ワークショップ】

実施団体名：東海大学（対面形式）

開催日時： 令和4年10月24日（月） / 17時10分～18時40分

実施場所： 東海大学

参加者： 15名

【第17回 ワークショップ】

実施団体名：北海道情報専門学校（対面形式）

開催日時： 令和4年10月25日（火） / 15時15分～16時45分

実施場所： 北海道情報専門学校

参加者： 31名

【第18回 ワークショップ】

実施団体名：経専北海道観光専門学校（対面形式）

開催日時： 令和4年11月1日（火） / 13時30分～15時10分

実施場所： 経専北海道観光専門学校

参加者： 16名

◇当日のタイムテーブルについて

時間	内容	備考
00:00	開会(ワークショップ(WS)の主旨・本日の流れを説明)	統括ファシリテーター(5分)
00:05	グループ内交流(自己紹介+アイスブレイク) 『札幌といえば、札幌で好きなおところ、札幌で自慢したいところ』	学生、グループファシリテーター (5分)
00:10	大会概要案の説明	札幌市(15分)
00:25	質疑応答	学生、札幌市(5分)
00:30	導入説明: WSの進め方を説明・学生ファシリテーターの位置付け 時は2030年、札幌は「世界に誇れるまち」へと変貌を遂げている。 『私たち・札幌市が、 2030年に達成すべき(達成したい)まちづくりのアイデアを考えよう!』 個人ワーク: 各グループで指定されたキーワードに関して、 各自で事例・メリット・ポイントを考え、アイデアの記入を行う	学生 (個人:5分)
00:35	<グループワーク> 個人ワークで出てきた内容を基にグループ内でディスカッションを行う。	学生、グループファシリテーター (ワーク:30分) バッファ:7分
01:12	各グループの発表	学生(10分)
01:22	アンケート	統括ファシリテーター(5分)
01:27	まとめ・閉会	統括ファシリテーター(3分)

※実施団体によっては、内容や時間等を変更してWSを実施しています

◇ファシリテーターについて

今回のワークショップは中立的な立場で議論を進めるために「札幌市環境局主催 気候変動・SDGs アクション Labo」でのファシリテーション実績があり、フリーランスとして活動している「NEONE（ネオン）」代表の馬場 航平さんに、統括ファシリテーターを務めていただきました。また、グループワークは学生ファシリテーターに進行いただき、若い年齢層の方々にも市民対話事業の運営に参画いただきました。

今回学生ファシリテーターとして参画いただいた24名の道内大学生に対しては、統括ファシリテーターの馬場 航平さんが2週間の期間を設けてファシリテーター研修を実施し、本番に向けて準備を進めていきました。

2. 各ワークショップでの意見まとめ

第1回ワークショップ 札幌医科大学

令和4年8月25日(木) 17:30-19:00

テーマ：2030 オリパラ大会を通じて、札幌のまちが『どのように変わってほしいか』

『自身はどう変えていけるのか』

【Aグループ：参加者4名】

札幌のまちが『どのように変わってほしいか』

- ・ 視覚障がい者や車椅子の人たちがより活動しやすく、過ごしやすいまちになってほしい。例えば、音が鳴る横断歩道をもっと増やす等。白杖を持っている方がエレベーターやエスカレーターがない地下鉄構内で、階段を登ろうとしている際に、通勤ラッシュの人々とぶつかりそうになっている場面を目にする。視覚障がい者用のエレベーターやエスカレーターの専用レーンなどが、より整備されると良い。
- ・ 階段しかない地下鉄の駅もあり、健常者でも疲れることがある。高齢者や車椅子の人たちにも優しい駅になって欲しい。バリアフリー化が進み、エスカレーターやエレベーターがもっと増えて欲しい。
- ・ 点字ブロックが老朽化して、機能していない場所も見受けられる。視覚障がい者にとって活動しやすい街になって欲しい。
- ・ 大倉山の近くに住んでいるが、除排雪が進んでおらず歩きにくい道が多かった。地下鉄から遠かったり、バスが少なかったり、地形的な面でも生活しにくいことが札幌には多いので、もっと改善されると良い。
- ・ 雪害などで交通障害が都心以外で起き、通勤できないなどの影響が出ている。そんな交通障害が軽減される仕組みや取り組みがあったら良い。
- ・ 車を手放す高齢者が益々増えることを見越して、車がなくても生活ができる（バス増やす/地下鉄増やす）環境づくりが必要。
- ・ 広い公園がもっとあると良い。ストリートバスケットコートなど、外で遊ぶ場所、無料で遊べる場所が増えると良いと感じる。外で遊んでいる子どもたちを見ることが無くなってきている。その理由として、公園では球技禁止にする等、過度に危険を排除し過ぎている面も否めないのではないかな。
- ・ オリンピックだけを目標にするのではなく、その先の未来を見据えて、子どもが遊べる場所など暮らしが豊かになる街づくりの取り組みがもっとなされると良い。
- ・ 人と人の距離が遠くなっていると感じる。人間同士がもっと“繋がる”街になってほしい。子育て中のお母さん方が集まれるカフェなど、集まりやすい場所が札幌ではあまり聞かない気がする。例えば、創生スクエアの中で、談笑できるスペースなどをもっと設けると良いと思う。
- ・ 多くの若者が集まり活気あふれるまちというと、東京や神奈川県をイメージする。中島公園や大通公園などでフェスやお祭りをもっと開催するのも良いのではないかな。既存のイベント（雪まつりやよさこい等）以外の催事が増えると、より活性化するのはないかと想像する。

『自身がどう変えていけるのか』

- ・ 高齢化対策がとても重要だと思う。このままの人口推移では、高齢化が進み札幌の元気がなくなってしまうため、若い力を集めて元気な街を作る手助けがしたい。
- ・ 東京 23 区だと区単位での子育て支援などを耳にする。札幌も若い力を増やしていくために、より小さなエリア単位で子育て支援などをしていくべきだと思う。そのため、自分自身が子育て支援の活動に携わっていききたい。
- ・ 多くの人が笑い合えるまちをつくるために、気軽に集まることのできるカフェや場所づくりのサポートをしていきたい。
- ・ 札幌へ観光に来ている方や、札幌在住のスポーツに興味のある子どもたち向けにイベントを開催し、子どもたちのスポーツ人口の底上げに貢献したい。

【B グループ：参加者 4 名】

札幌のまちが『どのように変わってほしいか』

- ・ 北海道の特色であるウィンタースポーツを、もっと北海道観光のウリにしていく。そんなまちづくりができれば良いと思う。
- ・ ウインタースポーツを身近に気軽に体験できる施設をもっと造って欲しい。
- ・ ウインタースポーツの道具を札幌市のような公共団体から格安で提供し、安くレンタルできるようになったら良いと思う。
- ・ スポーツを小さいころから身近に感じることができる施設を造っていくことが大事だと思うので、そういう気運を醸成していけたら良い。
- ・ 甲子園のように、そのまち全体ひいては日本全体が盛り上げられるスポーツイベントを札幌でも作っていただけると良いと思う。

『自身がどう変えていけるのか』

- ・ 理学療法士としてスポーツ選手をサポートしていきたい。またオリンピックに関係なく、間接的に市民の健康を支えていく関わりを始めていきたい。
- ・ 北海道の特色があるウィンタースポーツを身近に感じてもらうために、選手と一緒にスポーツ教室を開きたい。
- ・ オリパラ云々にこだわらず、札幌市民や道民の方の健康に自分なりのやり方で携わっていけると思う。

【C グループ：参加者 3 名】

札幌のまちが『どのように変わってほしいか』

- ・ 医療職の立場から考えると、スポーツ医療の認知がもっと進んでいると良い。ケガをしても、病院に行けばしっかりと治療を受けることができ、より痛みやストレスがない治療を受けられる社会になっていたら良い。

- ・ 東京大会を見て感じたことは、今まで研究されてきた技術を発表する場になり得るのだということ。例えば、自動運転など情報でしか知らなかったものが、実現されているかもしれない。その技術を世界に対してアピールできる場に札幌がなれたら素晴らしい。
- ・ 自分自身が学んだ医学情報を共有することで、患者さんが効率的に最適な医療サービスを探することができる社会になって欲しい。例えば、AI を活用し、健康状態の入力や顔を映すことでの確に診断が得られる等、医療設備がより整った街に変貌して欲しい。
- ・ バリアフリーの観点から考えると、札幌の街全体で、全ての人が自由に移動できる街づくりが進展して欲しい。
- ・ 2030 年のオリパラ誘致を契機に、地下鉄や市電がより整備され、色んな人が住みやすく、ストレスフリーに移動できる街になって欲しい。

『自身はどう変えていけるのか』

- ・ スポーツ医療分野の認知度をより上げていくために、医療に関する情報発信を行っていかうと考えている。
- ・ バリアフリーというと、建物内の環境や設備という部分に目が行きがちだが、「あらゆる人が暮らしやすく」という観点から、周りの医学生と協力して声掛けなどのアクションを実践していく。
- ・ 「札幌のまちづくり」を傍観するのではなく、「札幌市民の一員」として今回の市民対話事業など行政主体のイベント等にも積極的に関わっていかうと思う。

【D グループ：参加者 3 名】

札幌のまちが『どのように変わってほしいか』

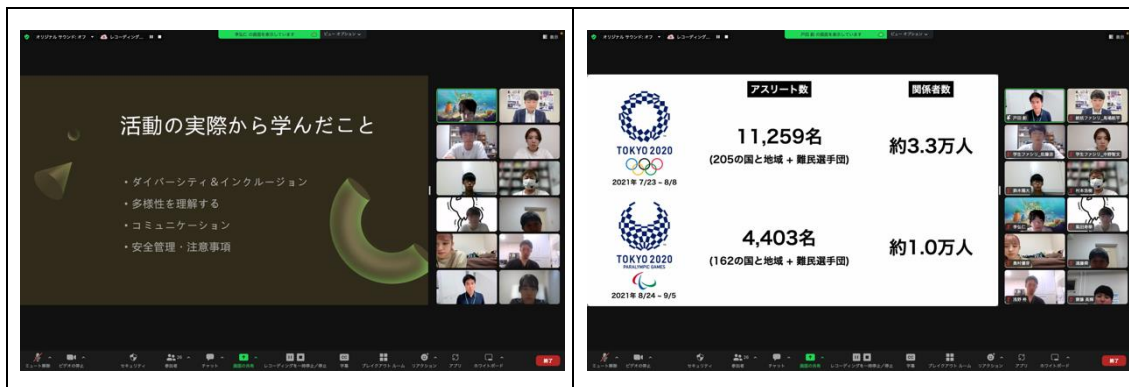
- ・ 観戦者が乗るシャトルバスなどを効率的な運用するために、冬場の道路の渋滞に関してより対処がなされた街であって欲しい。
- ・ 雪に伴う渋滞で想定していた搬送経路が使えない事態も想定されると思うので、道路幅員の拡張などを考える必要があると思う。
- ・ 救急車を山奥から市内の病院へ素早く搬送できる経路の確保と体制がきちんと確立される等、健康面でより安心できる社会・街になっていると良い。
- ・ 市営地下鉄から会場が離れている施設（例えば、盤渓、月寒体育館、白旗山スキー場など）への交通アクセスを改善するために、混雑度合いを数値として、且つタイムリーに計測できるまちになっていると良い。
- ・ 障がいのある方が訪れやすい環境を作るために、バリアフリーや障がい者向けの専門表記などがより充実したまちになって欲しい。

『自身はどう変えていけるのか』

- ・ 参加者や観光客をサポートするために、英語のリスニング力を鍛えていきたい。
- ・ 身振り手振り等のボディランゲージを使い、英語以外の自分自身が学んでいない言語であっても少しでも対応できるようになりたい。また、耳が悪い人のサポートが出来るように、手話や点字も学んでみたい。

- ・ 外国人と円滑なコミュニケーションを取るために、医療の専門用語や痛み（ズキズキ・チクチクなど）の英語表現を学んでいきたい。

◇ワークショップ当日の様子



第2回ワークショップ 札幌ファッションデザイン専門学校 DOREME

令和4年9月15日(木) 16:30-18:00

テーマ：2030年、【札幌はどんな街】だったら良いか？自分が憧れる札幌の街の姿を教えてください

【Aグループ：参加者5名】

■スポーツ・健康

- ・ 札幌市内の自然を生かしたアクティビティが充実している
- ・ 「健康づくり×観光」という観点で、手軽に参加できる様々なまち歩きツアーがある

■経済・まちづくり

- ・ 雪が素早く除排雪され、雪による交通アクセスの格差が解消される
- ・ 高層ビルが橋でつながり、都心部に地下だけでなく歩行者優先の移動空間（空中歩行者天国）が広がっている
- ・ 大通や札幌駅以外にも地下歩行空間が拡張され、移動の際に天候の影響を受けにくくなる
- ・ 自転車専用レーンが整備され、移動手段の多様化がより図られている
- ・ 地元民や観光客の別を問わず、札幌ならではの美味しい食べ物を気軽に楽しみ、昼夜問わず飲食店が賑わっている
- ・ 若者が夜道を安全に帰るために、街灯でまちが美しく明るくなっている
- ・ 歴史的な建物が商業施設などに改装、活用され、歴史とレクリエーションとの共存が図られた施設が札幌市内に点在している
- ・ 道内外問わず様々なまちとコラボしたイベントを定期的実施するなど、札幌のまちの魅力が発信され、ブランディングされている
- ・ 感度の高い（デザイン性に配慮された）の掲示物や建物が、まち全体に溢れている

■社会

- ・ 学生の支援金として、一人暮らしを始める人への補助金や返済不要の奨学金を増やす
- ・ 「貧困家庭が減り、差別や偏見がなく、いじめがない」まちづくりが進んでいる
- ・ 若い家族への優遇措置として支援金を給付し、子どもたちの習い事やスポーツ教室などにお金を使えるようにするなど、所得による子供の体験格差が解消されている
- ・ 音の鳴る信号機が増えて、高齢者や障がい者も安全により外出を楽しめるようになっている
- ・ ユニークな個人経営の服屋が増え、働いている人に制服などの服装などのルールがなく、髪色やファッションでもより自由に自己表現できる
- ・ 学校給食を全員が選択できる制度を作り、食に対してより選択肢や自由度が広がっている

■環境

- ・ まち中にガーデニングや木々など、自然に触れられる環境が増えている
- ・ 「暑すぎず、寒過ぎず」過ごしやすい気候で天候による災害が少なくなっている
- ・ 自転車レーンやポロクルポートを増やし、エコな移動をする人が増えている

【Bグループ：参加者4名】

■経済・まちづくり

- ・ 子育てのコミュニティが充実し、子連れの親子が穏やかに過ごせる場所が増えている
- ・ 地下鉄を延線し、札幌市内から空港まで地下鉄でアクセスできるようになっている
- ・ 地下で東京と繋がり、本州まで行けるトンネル道路ができる
- ・ いろんな考え方や夢を持つ人が集まり、札幌の起業家人口が増加している
- ・ 既存概念を打ち破るような、札幌発の独自ファッション（ファッションブランド）が生まれる

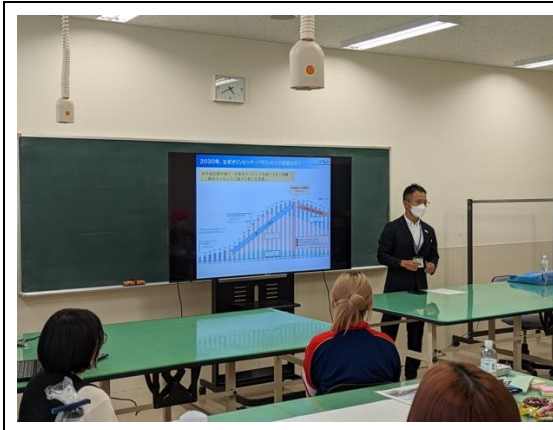
■社会

- ・ 個性を自由に表現でき、個々人がそれぞれ活躍できる場が増えている
- ・ 様々な夢を持つ人たちと交流する機会があり、夢で溢れるまちになる
- ・ 育った環境による考え方の違いを超えて、多言語で話せる人が増え、世界中の人とのコミュニケーションを取ることで異文化理解が進んでいる
- ・ 社会保障を充実させて、「札幌市内ホームレス0」を達成している
- ・ 東京にしかなかったものが普通に札幌でも買えるなど、本州との物流格差が解消される

■環境

- ・ ゴミのポイ捨てをなくし、きれいなまちが実現している
- ・ 自然をうまく取り込んだ外観のユニークな建物が増えて、まちが「映える」ようになる
- ・ 動物や自然を守るための施設や情報発信の場所が増えている

◇ワークショップ当日の様子



第3回ワークショップ° YOSAKOI ソーラン祭り組織委員会

令和4年9月20日(火) 18:00-20:00

テーマ：2030年、【札幌はどんな街】だったら良いか？自分が憧れる札幌の街の姿を教えてください

【Aグループ° 参加者4名】

■スポーツ・健康

- ・ スキーやスノーボード以外のマイナーなウィンタースポーツでも、誰もが気軽に体験できるように施設整備や認知が広がっている

■経済・まちづくり

- ・ 食や自然が豊かで、国内外からの観光客でまちがにぎわっている
- ・ 札幌郊外の地域でバスの便を増やし、夜でも安全に帰ることができる
- ・ 道外の観光客が札幌に滞在したくなる体験型の観光施設が増えている
- ・ 喫煙所や分煙している飲食店を増やし、公園や道路の吸い殻のポイ捨てを減らす
- ・ 地下鉄やバスで移動できないエリアが少なくなり、札幌市内の利便性が向上している
- ・ 札幌の自然を生かしたテーマパーク施設が増えている

■社会

- ・ 札幌市内中心部のオフィスビルに託児エリアを作り、女性の職場復帰を後押ししている
- ・ まち中に子どもが遊べる公園を整備する
- ・ ホテルや飲食店にも子どもを気軽に預けることができる施設を併設していく
- ・ 児童会館に学生スタッフを配置し、より多くの子供を受け入れられるようにする
- ・ まちづくりセンターがコミュニティスペースを充実させ、地域の人同士を繋げていく
- ・ 市民の人柄があたたかく、心理的に安心を感じやすいまちになる
- ・ 多国籍料理店やカフェなどが立ち並び、異文化交流が進んでいく
- ・ 子どもや学生が、まち中で遊ぶ場所に困らない

■環境

- ・ 「動物が住みやすい自然環境づくり」を積極的に取り組むまちになる
- ・ 気軽にリフレッシュできる札幌近郊のスポットを訪れる「癒しツアー」をパッケージ化し、国内外の観光客にSNSで発信していく
- ・ 札幌市内の大学生の視点で、景色がきれいで映える場所やマル秘スポットをまとめたフリーWEBマガジンを、クラウドファンディングを使って制作する
- ・ まちごとにそれぞれの魅力を写真とコピーライトを組み合わせで情報発信することで、それぞれのまちのプロモーションやブランディングに繋げていく

- 札幌の気候や環境を活かして、気軽にリフレッシュできる屋外アクティビティやイベントが充実しているまち

【Bグループ：参加者4名】

■経済・まちづくり

- バルコニーでビールを飲みながら景色を楽しむ飲食店を増やして、地元の交流スポットにする
- 夏場はテラス席を増やし、道端でお茶ができる環境が増えている
- 知る人ぞ知る温泉地を巡る、ディープな温泉ツアーがある
- 建物内の段差が少なく、高齢者や障がいがある人に配慮した設計が行き届いているまちになる
- バスの運行本数増加や地下鉄の延線、公共交通の運賃の割引をすることで、札幌から他のまちへの往来がしやすくなっている

■社会

- まち中の道がきれいで、アーティスティックな壁がいたるところにある
- 音楽に溢れていて、ファッションブルな雰囲気の人たちが集まってくる
- プライドパレード（LGBTQ）のようなイベントや多様性をより尊重するようになる
- まち中でも郊外でも、助け合い精神を札幌のモットーにする
- 時間的余裕のある高齢者が子供の面倒を見るという文化が根付いていく
- 北欧のように、子どもに対しても高齢者に対しても医療サポートが充実している

■環境

- 飲食店街でも汚臭がしない
- まち中でも空気が澄んでいて、緑豊かな風景があるまちになる
- 中心地からほど遠くないところでも、キャンプや釣りができるアウトドアスポットを作る

【Cグループ：参加者4名】

■スポーツ・健康

- ハイキングやカヌーなど、北海道、札幌にしかない自然を体験できるツアーやアクティビティを求めて、観光客や道民を問わず訪れるようになる

■経済・まちづくり

- 道内各地の飲食店が集まる食フェスが、定期イベントとしてまち中で開催されている
- キッチンカーが至る所にあり、外での気軽な飲食が文化になっている
- 北海道に旅行に来た学生も、その人と一緒に来店した学生も学割でジンギスカンが食べられる
- 札幌や札幌近郊でとれた海鮮や牛肉、白米や牛乳などを使用した独自の名物グルメが生まれ続ける
- テーマパークや遊園地などの、大人も子供も楽しめるアミューズメントが充実している
- オータムフェストのような大通公園でのイベントがどの時期でも開催されている

- ・ まちなかを巡るスタンプラリーがあり、週末に親子が楽しめる
- ・ 公共交通機関の運賃を安くして、移動にできるだけお金がかからない
- ・ 地下歩道の装飾物や雰囲気をもくして、通勤や通学が安全かつ楽しくなる
- ・ U24 学割などをレンタカーにも適用させ、長期休暇でなくても気軽に札幌市内へ出かけやすくなる

■ 社会

- ・ 大人が気軽に集まり、24 時間いつでも安全に交流できる場所が多くある
- ・ まち中の装飾物にレトロ感があり、写真で撮るとどこでもおしゃれで「映える」ようになる
- ・ 札幌市内でも郊外でも、道端で人が多く交流できる仕組み（おしゃれな休憩スペース）ができる
- ・ 季節や天候を問わず、誰もがあまりお金をかけずに住めるまちになる

■ 環境

- ・ 建物内部や屋上に植物を増やして、緑が豊かでおしゃれなまちになる
- ・ 動物が多く生息できるように、生態系の保全を札幌全体で取り組む
- ・ 野生動物の特性や注意すべき理解できる展示やイベントがあり、動物と人間の共生に関心が高い
- ・ まち中に自然を感じるデザインや草木を増やし、市民が自然を感じやすいまちづくりを進める

【D グループ：参加者 4 名】

■ 経済・まちづくり

- ・ JR や公共交通機関の遅延が少なくなる
- ・ 空中を移動できるドローンタクシーを街中に配備する
- ・ 丘珠空港発のディープな観光ツアーの多数企画し、札幌観光の新たな聖地とする
- ・ プロジェクションマッピングを使ったイベントが、札幌の新たな夏の風物詩になる
- ・ 屋外イベントにて、ライブ感のある曲や雰囲気などの空間作りが工夫されている
- ・ バーチャル化や仮想現実の技術が発達し、メタバース活用がより進んでいく
- ・ 地下鉄が札幌市内すべてつながっていて、どこでも地下鉄で行けるようになる
- ・ 天候に影響されずに移動できる、タクシーより安い交通手段ができる
- ・ 低所得の家族や学生、若者への金銭的支援が充実している
- ・ 週末に様々なイベントが企画されることで、あらゆる世代が交流しやすくなる

■ 社会

- ・ アイヌの歴史を感じる展示やイベントが増え、アイヌ文化が札幌により馴染んでいく
- ・ 義務教育でのアイヌ語が「国語」や「社会」の中で授業化されていく
- ・ アイヌの服がリスペクトをもってリメイクされ、アイヌファッションが生まれる
- ・ 小中学校以外でも、教育機関での YOSAKOI の踊りや文化背景を学ぶ授業がある
- ・ 地産地消を促す取り組みとして、札幌市内で収穫された食物を使用した「宿泊施設付き飲食店」の建

設等に、札幌市が補助金を出す

- ・ 札幌の人は「やさしくて、心に余裕のある人が多いね」と道外の人から認知されるようになる
- ・ 若者が就職で道外へ出て行かずに、住みたいと思える遊び場やコミュニティがある

■環境

- ・ 建物内部にも植物が 7:3 の比率で配置されていて、緑と人工物のバランスが取れている
- ・ 空気の綺麗さが数値や色で可視化されていて、綺麗でどかな雰囲気を誇れるまちになる
- ・ 電気自動車や環境に配慮した乗り物が多く、交通量が多くても排気ガスが少ない

【E グループ：参加者 4 名】

■スポーツ・健康

- ・ まち中にサウナが増え、年中「ととのう」場所がある
- ・ 運動できる施設が増えることでスポーツに親しみやすくなり、プロアマ問わずスポーツチームが盛んに活動するようになる

■経済・まちづくり

- ・ 空港が近くにあたり、空港までのアクセスの選択肢が増えたり、価格が安くなることで、飛行機が今よりも身近な交通手段となっている
- ・ 道路が広く、札幌の除雪処理能力が上がることで、冬の移動にも困らなくなる
- ・ 既にある交通機関がさらに便利になるだけでなく、ドローンタクシーやモノレールが導入され、交通手段が多様になっている
- ・ 札幌市内及び近郊のキャンプ場の改修と整備を進め、札幌を「キャンプの聖地」にする

■社会

- ・ 札幌市内に遊園地やテーマパーク、温泉地といったレジャー施設を増やすことで、老若男女問わず楽しめるようになる
- ・ 札幌を盛り上げる「四季の祭り」を新たに企画し、まちおこしイベントにすることで、札幌では一年を通してお祭り気分を味わえるようになる

■環境

- ・ 雪まつりだけでなく、雪や寒さを活かしたイベントを増やし、地元住民や観光客が冬でも外で楽しめるようにする
- ・ 学習が可能なスペースや図書館や魅力的な書店を増やすことで、教育活動が盛んになっていく

- ・ 医療機関が発達し、飲食店が充実しているという都市ならではの良さと、緑が多く水や空気がきれいという自然の良さが併存している
- ・ 充電スポットや高速 Wi-Fi スポットが多数配備され、フリーランスの方やリモートワーカーたちが仕事ついでに気軽に観光に訪れることができるまちになる

◇ワークショップ当日の様子



第4回ワークショップ YOSAKOI ソーラン祭り組織委員会

令和4年9月25日(日) 10:00-12:00

テーマ：2030年、【札幌はどんな街】だったら良いか？自分が憧れる札幌の街の姿を教えてください

【Aグループ：参加者5名】

■スポーツ・健康

- ・ 市民がマイナーなウィンタースポーツを親しめるように、競技施設を整備する
- ・ 気軽に市民が参加できるようなお祭りを季節ごとに定期開催している
- ・ オリンピック・パラリンピックでは選手村で YOSAKOI の曲が流し、選手や地元住民、国内外問わず観光客がみんなで踊るイベントを企画する

■経済

- ・ YOSAKOI が北海道の伝統文化として広まり、地元民と観光客双方が YOSAKOI を楽しめるようなイベントが夏の期間で定期的で開催されるようになる
- ・ AI 技術の発達で言語翻訳などが容易になり、外国人観光客が札幌を訪れるハードルが下がる
- ・ 四季のどのタイミングで来ても、観光客が楽しめるコンテンツが用意されている

■社会

- ・ 気軽に勉強できるスペースや他大学生と交流できる機会を増やし、学生間の交流を活発化させる
- ・ 高齢者専用バスの整備、地下鉄の本数の増加など、現在よりも交通のストレスが軽減されている
- ・ 月ごとに違うプロジェクションマッピングでテレビ塔を彩る企画や、サンタの恰好をした車夫の人力車など、見ていると楽しめる「映える街並みづくり」に取り組む

■環境

- ・ 大通の各丁目ごとにインスタ映えスポットがあり、アーティスティックなトイレやごみ箱が設置されるなど、まちの至る所に「アート」が溢れている
- ・ まちをアートで彩ることで、心理的に「ごみをポイ捨てしづらい」まちにする

【Bグループ：参加者6名】

■スポーツ・健康

- ・ こどもスポーツ教室やシニアスポーツ大会など、各世代に誰でも参加できるスポーツイベントを行うことで「スポーツ振興」を支援する
- ・ チカホでランニングできる時間を設けることで、まち中での運動を推奨する
- ・ 北海道/札幌の雪を活かして、外国人観光客向けのスキー・スノボ教室を大学生が実施する
- ・ 札幌をあげて YOSAKOI の日をつくり、各所で踊る様子が SNS で世界中に発信されている

■経済

- ・ アニメやマンガの撮影地になった場所を巡る「聖地巡礼ツアー」を目玉とし、国内外からの観光客を呼び込み、札幌のファンを増やしていく
- ・ YOSAKOI の魅力が SNS を通じて世界に発信され、世界中から YOSAKOI を踊りに人が集まる

■社会

- ・ 清田区や手稲区に地下鉄を延伸し、バスの本数や行先を増やすなど、交通機関の利便性を現在より高め、公共移動手段の利用者を増加させる
- ・ 市電を活用したり、地下を自転車で走れるようにしたりして、まち中を走る車の数を少なくなる
- ・ 不審者がいなくなり、自転車盗難が減少し、市民が安心安全を感じやすい
- ・ 初めて来た観光客や日本語が不自由な外国人観光客でも、分かりやすい交通機関整備がされている
- ・ 障がい者や LGBTQ の人々であっても、誰もが暮らしやすく多様性にあふれている

■環境

- ・ 現状の自然を守るだけでなく、増やすことにも力を入れた、緑あふれるまちにする
- ・ 「中島公園内にホテルを放流プロジェクト」を札幌市と大学共同で立ち上げ、中島公園が札幌随一の多様な生態系を持つ公園にする

【C グループ：参加者 5 名】

■スポーツ・健康

- ・ 未来の野球少年のために、バットの原料となるアオダモの植林を進める
- ・ どこにいても気軽にウィンタースポーツが楽しめる VR 施設を市内中心部で建設する

■経済

- ・ 米やラム肉、野菜や魚といった北海道・札幌が誇る美味しい食材を活用したフードイベントを、季節ごとに開催することで観光客を呼び込む
- ・ 札幌のカレーやラーメンを SNS で発信し、ローカルフードやソウルフード、「札幌最強の B 級グルメ」としての地位を定着させる
- ・ “インスタ映え”狙いのグルメイベントを企画し、札幌のソウルフードを SNS で世界に発信することで「映える食の宝庫 札幌」と認知されるようになる
- ・ 札幌が誇るカレーやラーメン、サッポロクラシックやジンギスカンなどの「札幌の食」が同時に楽しめるフードテーマパークがある

■社会

- ・ アイヌをテーマとした漫画「ゴールデンカムイ」の展示がチカホで開催されることで、地元住民や観光客がアイヌの文化に自然と興味が沸くようになっている
- ・ チカホを延長することで、大学や観光地へのアクセスを容易にし、人の往来がより活発になっている

■環境

- ・ JRの路線にロードヒーティングを導入し、雪が降っても遅延しなくなる
- ・ 冬場にアスファルト路面が凍ると滑りやすく危険なので、市内中にロードヒーティングを整備する

【Dグループ：参加者5名】

■スポーツ・健康

- ・ 家族みんなで遊びに行けるレジャー施設やキャンプ場、子どもが自由に遊べる公園が増え、日常的に体を動かせる場所を札幌近郊に増やしていく
- ・ 遊びとしてのスポーツを楽しめるように、日常的に体を動かせるような室内施設の整備を進める
- ・ 札幌市を歩くと歩数や距離に応じて電子ポイントが溜まるアプリを制作し、そのポイントが地下鉄やバス等の公共交通機関で利用できるようにして、運動の習慣化をサポートする
- ・ 老若男女、スポーツの得意/不得意に関わらず、誰でも参加できるスポーツ大会が定期的で開催されている

■経済

- ・ スポーツだけでなく言葉、音楽、芸術なども一緒に楽しめる文化イベントを開催し、札幌の魅力が多方面から市民や観光客に発信されている
- ・ 若年層向け商業施設を増やし、若者の札幌へのリピート率を上げる

■社会

- ・ 障がいがある方のファッションショーを通して障がい者理解を進め、お互いの「個性を尊重し合う文化」が広がっている
- ・ 札幌のソウルフードを使ったヴィーガン、ベジタリアンなどの新しい食文化を提唱する
- ・ 育休や産休などの育児保障だけでなく、子育てママが集えるコミュニティを作り、子育てのしやすいまちになっている

■環境

- ・ 自転車専用道路の整備を進め、市民の自転車利用率を70%まで高める
- ・ 国内一、電気自動車や燃料電池車が普及しているまちになっている

【Eグループ：参加者6名】

■スポーツ・健康

- ・ 公園に子どもが楽しめる遊具だけではなく、大人も楽しめる遊具も設置することで、色々な人が公園で運動をする習慣が自然に身に付くようになる
- ・ 障がい者スポーツの体験を一般市民向けにも行い、まちで一丸となって障がい者スポーツを盛り上げていけるようにする
- ・ 子どもから大人まで YOSAKOI に親しめるように、部活動整備やプロチームの設立を進めてスポーツ競技としての地位を確立させる

■経済

- ・ 何度でも行きたくなる、見たくなるような目玉の観光名所が札幌に複数できている
- ・ 札幌時計台が“がっかり”と言われないようにリニューアルし、札幌を象徴する観光の新目玉「BIGBOSS 時計台」に名称を変更する

■社会

- ・ 市電のルートを増やし、地下鉄/JR の終電を延ばすことで、今よりも交通の便が良いまちになる
- ・ 若者が老人ホームへのボランティアやまちにお年寄りが訪れるサポートをする等、世代を超えて交流が活発になっている

■環境

- ・ 駐輪場を増やしたことで自転車の利用が増え、ロードヒーティングで歩きやすい道路になり、人の行き来が活発になっている
- ・ ソーラーパネルの設置や電気自動車の普及で、車からの CO2 排出量を 0 にする
- ・ まち中に 3R 用回収 BOX を整備し、利用する度にコンビニや公共交通機関で利用できる「電子ポイント」を付与する仕組みを作り、市民が積極的に 3R を行うようにする

◇ワークショップ当日の様子



第5回ワークショップ 北星学園大学

令和4年9月30日（金）13:00-14:30

テーマ：私たち・札幌市が、2030年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【Aグループ：参加者5名】

■スポーツ・健康

- ・ アスリートを輩出するための具体的な取り組みがある
- ・ 札幌ならではのスポーツに特化した体育の授業がある
- ・ 一般市民向けに、住宅街の中に安価なスポーツ施設がある
- ・ 年齢による限界や怪我等でスポーツから離れるときに、セカンドキャリア提案をするアドバイザーがいる
- ・ ウィンタースポーツ場の観光客向け無料案内所が、まち中にある

■経済

- ・ 札幌のゆるキャラアイデアを市民から募集し、グッズやPR活動の一環に利用する
- ・ テーマパークで「熊のショー」を企画することで、熊の器用さや生態、特徴を人々に知ってもらい、動物と人間の共生を考えるきっかけにしよう
- ・ スーパーで地元のものが多く扱われていたり、食イベントに札幌の食材のみを使ったりと、地産地消を促す取り組みがされている
- ・ 食を楽しめる遊園地が年中開かれている
- ・ 札幌ラーメンのサブスクリプションで、閉店後に余った食材を「まかないメシ」として安く食べられるなど、フードロス削減に貢献するサービスが普及している
- ・ 学生が「札幌の新しいB級グルメ」となる食べ物を開発し、大通公園でフードイベントを開いている
- ・ まちの景観色を意識した建築物の塗替えにより、写真映える観光スポットがたくさんある
- ・ ディスカウント食材を販売する場所がまち中に設けられ、フードロス削減に取り組んでいる

■社会

- ・ 子どもがすすきの中でも安全に過ごせる
- ・ 障がい者スポーツを周知させるためのイベントが日常的に開催されている
- ・ 道路に雪で隠れないような標識が整備されている
- ・ チカホの歩き方を映像で伝えることで、外国人やハンディキャップを持った人が簡単に理解できる環境
- ・ 公共交通機関の駅にエスカレーターやエレベーターが整備されている

■環境

- ・ 季節労働者や農家など夏季の仕事の主とする人々が、除雪仕事を単発からでもできる仕組みが整っている

- ・ 高齢者が住んでいる住宅や積雪量が多い地域等、「生活するのに不自由や困難を抱えている地域や人々」に集中して、行政の資金援助が行き渡るような仕組みが構築されている

【B グループ：参加者 5 名】

■スポーツ・健康

- ・ 女性専用ジムがあり、お互いに励ましあって運動ができる
- ・ 学生運動部の遠征費用に関して、新しい補助金制度が導入されている
- ・ スポーツ施設やジムの利用料金を安くし、運動に興味のない人でもスポーツを始めやすくなっている
- ・ 安くて質の良いスポーツ用品が買える場所がある
- ・ 公営の体育館にスピーカーや鏡などの備品が豊富に整っている

■経済

- ・ 学生アルバイトの最低賃金が 1,200 円以上で、学校で学んでいる分野に近い働き口が多くなっている
- ・ 札幌の自然を活かした屋外のテーマパークがあり、家族で来る観光客が多い
- ・ 公共交通機関に市民料金や割引をつくる
- ・ アウトレットモールなどの週末に家族で訪れる商業施設がたくさんある
- ・ 食べ物専門の商店街が午前 3 時まで賑わっている

■社会

- ・ まち中に 1 丁分につき 2 個ずつ清潔なトイレがある
- ・ タクシー代が安く、まち中のちょっとした移動が便利
- ・ 郊外の街灯がたくさんあり、終バス時間を遅らせても安全に夜道を帰ることが出来る
- ・ 地下鉄の車両に折り畳み式の机がついた席があり、仕事や勉強ができる
- ・ 地下鉄に、ベビーカーを押した人や乳幼児を連れた人たちのための専用車両がある
- ・ 普段は店で見ない美味しい食べ物が食べられるイベントが年中開催されている
- ・ 札幌ならではの「冬のビアガーデン」が新しい文化になっている
- ・ 札幌駅などのまち中に駐車場があることで、路上駐車が日本一少ないまちになっている
- ・ 駐輪場が適切な場所に設けられ、違法駐輪がゼロのまちになっている
- ・ 髪色やピアス、ネイルなどが自由である接客業が 9 割を超え、個性を尊重しながら働くことができている

■環境

- ・ 大人でも楽しめる遊具がある公園がたくさんある
- ・ ボール遊び OK の公園がまち中にある
- ・ 地下鉄駅構内に透明のゴミ箱を一定期間設置し、ゴミの量を可視化がすることで、「地下鉄駅のゴミ箱は 1 日でこれほどのゴミが溜まる」という市民に認識を持ってもらい、ゴミ削減を促す
- ・ 歩道の草刈りをボランティアがしたり、スポーツ用の人工芝の整備がされていたり、緑の管理ができている

◇ワークショップ当日の様子



第6回ワークショップ 北海学園大学

令和4年10月3日（金）16:00-17:30

テーマ：私たち・札幌市が、2030年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【Aグループ：参加者6名】

■スポーツ・健康

- ・ 地域のスポーツチーム維持のため、スポーツ指導者の教育や育成する為の補助金をつくる
- ・ スポーツできる場を増やすため、使われていない運動場を整備し運動をできる拠点を増やす
- ・ 子供や若者にとってマイナーな冬季スポーツをメジャーにするため、冬季スポーツ部活を中高校で増やしていく
- ・ 市民の健康維持のため、季節問わず室内スポーツ施設を建設し、マイナースポーツを体験できる場をつくる

■経済

- ・ 交通手段をより快適にするため、東豊線を栄町方向に延伸する
- ・ 飲食店が深夜帯の営業をして、札幌市街の人が宿泊せずとも楽しめるように周辺地域と協力してまちづくりを進めていく
- ・ チカホなどの地下と狸小路商店街などの地上とを行き来しやすくなるような映えるイベント作り
- ・ 気温や気候を考慮した観戦場所をつくり、飲食店で観戦する文化を作る

■社会

- ・ 公園近くの空きオフィスを託児所になり、日本で一番親が子供を預けやすく、社会復帰が早くて育てやすいまち
- ・ 冬にも移動しやすく、バリアフリーにも配慮したまち
- ・ 雪による遅延時間や遅刻などに対応したデジタル遅延証明書などの特別ルールをつくる
- ・ 自転車移動を快適にするために自転車専用道路を作る

■環境

- ・ 除雪した後の排雪に困った雪を雪像や氷像に活用し、雪まつり期間以外も市民主体のイベントをつくる
- ・ 雪を溶かすロードヒーティングを太陽光発電などの自然環境に優しい発電からエネルギーを得る

【Bグループ：参加者6名】

■スポーツ・健康

- ・ 大通公園に大人が運動できる器具や設備をつくる
- ・ スポーツバー以外で大勢の人とスポーツを楽しむために、外でパブリックビューイングできる拠点を作る

- ・ 冬場のジム無料開放やオフシーズンのスポーツ観戦無料招待など、スポーツに関心のない人がはじめるキャンペーンを同時に実施する

■経済

- ・ チカホの延伸と同時に、大通公園の出口に名前をつけて、面白く覚えやすくする
- ・ 「映えるお店」を増やし、そこで勤務する学生スタッフの最低賃金をあげると同時に、インセンティブ制度をつくり、飲食業界に就職したい学生を北海道に誘致する
- ・ 巨大なトリックアートや札幌出身のアーティストの音楽が流れているチカホにして、歩きたくなる空間にする

■社会

- ・ 留学生が観光客と日本人の間を繋ぎ、交流できる場所とイベントを大通公園で開催する
- ・ 外国人対応できる飲食店を増やすために留学前や留学後の学生が優先的に働けるお店を多くする

■環境

- ・ 駐輪場の自転車の置き方を綺麗に収納するとポイントが貯まる仕組みをつくる
- ・ 雨割で札幌市内のペロタクシーなどの公共交通以外の運賃を安くし、新しい移動手段を使うきっかけをつくる
- ・ 札幌フリーWi-Fi の電力を強くして、大通公園や豊平川周辺などの自然がある場所をコワーキングスペースにする
- ・ 創成スクエアのようなフリースペースをつくり、他大学の交流を促す場を作り、学生団体や学生の活動を支援する人たちが交流できる時間を定期的にする
- ・ 公共交通の乗り降りの際に、ステップやスロープが自動で出てくる仕掛けを作り、バリアフリーにする

【Cグループ：参加者5名】

■スポーツ・健康

- ・ 歩道の拡張や木や花などの植物を植えて、ご近所さんと共同で育てることでウォーキングしたくなる歩道を整備し、高齢者の引きこもりを減らす
- ・ 無料の運動施設を駅周辺に作り、仕事帰りや学校帰りに気軽に運動できるエリアをつくる

■経済

- ・ どこまでも 500 円で乗れるタクシーなど交通機関の学割を定期券以外にもつくる
- ・ 札幌の区単位で北海道内の過疎地域との連携をして、姉妹都市として季節ごとに食の企画をつくる
- ・ 地産地消の推進の一環として、札幌市内で収穫されたものを 8 割以上使っているお店にしか置けないアートを設置し、「映えるお店」を増やす

■社会

- ・ 外国人共生を目指して、英語を身近にするために、札幌市内の幼稚園やこども園での教育改革を行う

- ・ ペット飼育可能な住居を増やし、ペットの定期検診制度を作り、ペットの安心や安全を考える人を飼い主以外の人に多く設けて、殺処分ゼロにする
- ・ 札幌駅を東西線に移し、24 時間使える交通機関を 1 時間に 1 本走らせる
- ・ 広い公園に地下空間を作り、子供の遊び場に地上と地下のつながりをつくる
- ・ 札幌市内の築〇年以上の建物の屋上に太陽光発電設備をつけることを義務付ける

■環境

- ・ まち中に緑と土のスポットを設け、食関連企業がシェア畑として有機農業を始める制度をつくる
- ・ 動物との生活領域を区別するための講座を札幌の免許合宿で行う

【D グループ：参加者 6 名】

■スポーツ・健康

- ・ ランニングやサイクリング用道路を整備し、ランニングすればするほど、アウトドア用品を買うために使うポイントが貯まるサービスを作る
- ・ 自転車のリサイクルや中古自転車の販売、駐輪場整備を札幌市が行って、夏場の自転車移動を主流にした最初のまちとして札幌をブランディングする
- ・ ウィンタースポーツのアミューズメントパークを造り、温泉施設（サウナ付き）とともに運営して、天候が悪くても楽しめる運動拠点を増やす
- ・ 公園とフィットネスを繋げるために、小さな公園でも大人が使用できる器具の設置を義務化する

■経済

- ・ 自動運転除雪機で札幌を冬季対策に特化した IT 産業の集積地という PR できるまち
- ・ 1 本あたりの JR の車両を少なくする分、本数を増やし、札幌から千歳間の中距離をつなぐ交通網の整理をする
- ・ スーパカレーフェスタなどの屋外での食のイベントを増やし、外で飲食する文化を作る
- ・ 道内食材浸透のため、道内食材専門店を開店する際は、補助金を受け取れるようにする

■社会

- ・ 標識をわかりやすく見やすくして、札幌の景観色を意識した見栄えのよいまちづくりをする
- ・ 海外アーティストを呼んだフェスを屋内と屋外のハイブリッドで行うことで海外観光客を増やす

■環境

- ・ ポイ捨て対策として、狸小路やススキノを中心におしゃれなゴミ箱の設置を増やす
- ・ フードロス対策としてまかない飯のような、学生に特化したまかない提供サービスを増やす

【Eグループ：参加者6名】

■スポーツ・健康

- ・ スポーツチームのバックアップ体制がしっかりしているまち
- ・ 若手で有望な選手を積極的に育成し、市民がウィンタースポーツに熱いまち
- ・ 深夜営業のサウナと無料のジムをセットにして、働いている人が運動しやすい環境づくり

■経済

- ・ 道外企業本社の札幌移転を誘致すると同時に、雪関連のスタートアップ企業育成に力を入れるまち
- ・ 本州よりも早くウィンターフェアを行って、服装や雑貨の季節の先取りができるようにする
- ・ 観光地を増やすために、札幌10区のブランディングがされている

■社会

- ・ 公共交通機関の遅延がゼロなまち
- ・ 若年層に向けた性教育を広めるために、小中学校の保健体育の時間を男女一緒に行うようにする
- ・ 道路や公共施設の標記多言語化を徹底し、デザイン性の高いデザインの標識を作る

■環境

- ・ 雪解け水を使った冷房施設を完備した建築物を増やす。
- ・ ごみのポイ捨てをなくすために、ゴミ箱を増やすとともにポイ捨ては罰金というルールをつくる
- ・ 喫煙所を建物の屋上に作って分煙し、受動喫煙者を減らし、日本一空気のいいオフィスがあるまち

◇ワークショップ当日の様子



第7回ワークショップ 札幌大学

令和4年10月11日（火）14:40-16:10

テーマ：私たち・札幌市が、2030年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【Aグループ：参加者4名】

■スポーツ・健康

- ・ 40代以上の「シニアオリンピック大会」を開催する
- ・ 「40代アスリートたちの生活スタイルから食育を学ぶガイドブック」を作成し配布する
- ・ こどもからお年寄りまで楽しめるようなVRを利用したスポーツ観戦、体験できる環境がまち中に溢れている

■社会

- ・ LGBTQの壁をなくすため、北海道独自の同性婚制度の充実、同性婚を認める活動を活発にする
- ・ SNSを通じた出会いをポジティブに捉えられるようになる制度や風土が醸成する
- ・ 高齢者もInstagramやTikTok等のSNS利用をやすく、高齢者向けSNSアプリの開発が行われる
- ・ 「お年寄り専用エリア」では、高齢者、障がい者の生活環境を重視したまちづくりやサポートを行う
- ・ 「ユニバーシティエリア」を作り、多様性社会を尊重し、受け入れる教育や地域サポートを行う

【Bグループ：参加者4名】

■経済

- ・ 「空飛ぶ車実現プロジェクト」を立ち上げ、交通インフラの一つとなっている
- ・ ドローンを防犯インフラとして活用し、事故や犯罪の映像記録を残し、治安維持や事故防止を行うことができる
- ・ 障害物や交通状況をドローンが分析し、ハンディキャップのある市民や観光客に危険情報を伝えることで、多くの人が生活しやすくなる

■健康・スポーツ

- ・ 冬季には、かまくらで外気浴など北海道の自然を利活用したサウナで、健康寿命が延びているまち
- ・ アプリでの処方箋管理でドローンが薬を届けてくれるなど、ドローンのインフラ化が進んでいる
- ・ ドローンのスポーツ化・ドローン競技の興隆
- ・ スマートコンタクトレンズ^{※3}をいち早く導入し、聴覚に障がいのある市民に無料提供

※3 音声を可視化できるコンタクトレンズ

【Cグループ：参加者4名】

■社会

- ・ 道路のガタガタを直して、ベビーカーも押しやすく、高齢者でも安全に生活できる歩道づくり
- ・ 札幌出身アーティストの音楽や新曲のMVを公共空間で流すなど、音楽がもっとあふれるまち
- ・ 地下鉄の駅や大通公園の丁目ごとに音楽を制作し、音楽とアートなど、芸術に触れやすくなる
- ・ 学校の授業で、障がい理解に関する内容を取り入れ、他者理解の進んだまち

■環境

- ・ 自然災害への整備がなされている
- ・ 地下街に空気清浄や加湿機能が入り、清潔で適湿な空気が地下でも味わえる
- ・ ゴミ捨て場が地下で繋がっていて、自動集積されるしくみでまちもキレイ、住民のゴミ捨てストレスゼロ

【Dグループ：参加者4名】

■経済

- ・ ペットしつけスクールを札幌市支援の下、継続的に実施する
- ・ 地元の食べ物を使って給食を提供し、地産地消を進めていく
- ・ まちなかに映えるスポットを増やす
- ・ ペットと一緒にショッピングできる商業施設が増えている

■環境

- ・ 落ちているゴミを袋いっぱい集めて、ある特定の場所へ持ち込むと電子ポイントが付与される
- ・ 川や海のゴミを自動回収するシステムを開発し、札幌市内全域に導入する
- ・ 野生動物の修正/行動を理解し、動物との共生を考えるきっかけを市民に継続的に与える
- ・ 街並みが綺麗で、SNSでのハッシュタグ数（#札幌）が全市町村で1位になる
- ・ 学校などの教育の場で学習する機会を設ける

◇ワークショップ当日の様子



第 8 回ワークショップ 北海道大学

令和 4 年 10 月 12 日 (水) 18:30-20:00

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき (達成したい) まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 5 名】

■ 社会

- ・ チカホにドッグランを設置して、ペットと出かけやすいまち
- ・ 「車は地上、人は地下」というルールを徹底することで、お互い安全に移動ができるまち
- ・ 札幌全域をチカホ化し、悪天候でも外に出るのが憂鬱にならず、雪がたくさん降っても障害にならないまち
- ・ 全飲食店割引 DAY をつくり、飲食店を活性化し、市民みんながそれぞれ行きつけのお店を持つまち
- ・ 働く人たちのお昼寝タイムを制度化し、午後からの仕事で効率と満足度のアップをはかる

■ スポーツ・健康

- ・ 札幌全域にフリー Wi-fi を完備し、札幌にいる誰もがいつでもどこでも、簡単に通信できる仕組みづくり
- ・ 札幌市内を移動するためのスキー板が貸し出されていて、冬を楽しみながらスイスイ移動できるまち
- ・ 60 代以上が対象の「Wii-Fit」スキージャンプ選手権を開催し、お年寄りも楽しく健康になるまち
- ・ 運動したらポイントが手に入る「Spoint」を導入し、ポイントは病院受診料や買い物に使えるようにする

【B グループ：参加者 5 名】

■ 経済

- ・ 「観光地区」を設けることで観光スポットを 1 か所に集約し、移動を少なく観光を楽しめるようにする
- ・ 街並みがきれいどこを撮っても「映え」ていて、歩いているだけでワクワクする楽しいまち
- ・ 多国籍料理のお店が市内にあふれていて、他民族を受け入れる風土があるまち
- ・ 役所手続きを全て 1 ヶ所で済ませられる「スマートシティ」化を進める
- ・ 役所での手続きの面倒を解消するため、ネット上での手続きを可能にする
- ・ クラウドファンディングで公園の遊具を一新し、最新遊具化&安全面強化をすすめる
- ・ キャンプしながらスポーツ観戦ができるまち
- ・ スポーツ観戦ができる大型屋外ビジョンを備えたキャンプ場を建設

■ 環境

- ・ ビルの屋上で野菜の水耕栽培をし、輸送コストダウン&フードロス削減を目指す
- ・ JR 札幌駅と新千歳空港を結ぶ地下鉄を建設する
- ・ ごみ箱の数を増やしてポイ捨てを減らし、きれいな街並みを維持する
- ・ 悪天候による JR の遅延をなくすために線路をすべて屋根で覆う
- ・ 雪を活用して発電が出来る仕組みを札幌が主導で開発する

- ・ 温泉の熱を活用して、温泉排水をロードヒーティングへと再利用する
- ・ 札幌の次世代の交通手段として「空飛ぶタクシー」をいち早く実現させる
- ・ ビルの屋上は全てソーラーパネル化し、全てのオフィスで自家発電をする

【Cグループ：参加者4名】

■スポーツ・健康

- ・ チカホで「eスポーツ」の体験を出来るようにし、老若男女問わず楽しめる娯楽にする
- ・ 飲料水を汲める場所を増やし、「ペットボトルごみ」の削減に加えて「マイボトル」の普及を目指す
- ・ チカホにお昼寝スペースを設置し、ちょっと一休みできる場所づくり
- ・ チカホを2層構造にすることでランニングができて、自転車が通れる通路にする
- ・ 高齢者向けに「リングフィット」のようなゲームを開発し、ゲーム感覚でスポーツを楽しめるようにする
- ・ 高齢者向けの運動ゲームを開発し、札幌市民の健康寿命を伸ばす
- ・ 冬をまったり、そしてゆっくりと過ごせるよう休憩時間を増やす「ウィンタータイム制度」を導入する

■経済

- ・ 飲食店にオープンスペースやテラス席を増やし、美味しい空気と料理を味わえるようにする
- ・ 地球にやさしい代替エネルギーを積極的に利用する
- ・ 男女に関係なく育休を取りやすい雰囲気づくり
- ・ 冬は公共交通機関の利用が増えるため、運賃を下げ利用しやすくする
- ・ チカホを歩く人の振動を活用した発電システムを開発する
- ・ チカホなどでスキマ時間に自転車を漕いで発電を行う「発電アルバイト」を導入

【Dグループ：参加者5名】

■社会

- ・ 駅周辺にペットホテルを整備し、ペットと楽しく札幌観光が出来るようにする
- ・ 自転車でスイスイ移動出来るように、道路を平らにし、道幅を広くする
- ・ 発達支援施設を充実させて、誰でもどこでも暮らしやすい社会にする
- ・ 0歳から預けられる保育園を増やし、女性の社会復帰をサポートする
- ・ JR、地下鉄、市電、バス、全ての公共交通機関のバリアフリー化を進める
- ・ 外国語でのコミュニケーションを取りやすくするために多言語教育を早期から行う
- ・ 男性用育児教育が必須にする
- ・ 様々な施設に「多言語案内板」の設置を徹底する
- ・ 都市部にオフィス併設型の保育園を多数設置する
- ・ 様々な施設や飲食店に、翻訳&スピーキングマシンの設置

■環境

- ・ ディズニーランドや USJ に並ぶ「日本三大テーマパーク」のひとつを札幌に建設
- ・ 一年中、冬を楽しめる屋内テーマパークを建設
- ・ 世界的な人気の「ポケモン」をテーマにした屋内テーマパークを札幌に建設
- ・ 大阪に負けないくらいの「活気」と「熱気」があるまちにする
- ・ 下からごみを入れる「ごみ箱」を導入し「下から捨てる」大変さから、無頓着にごみを捨てることを防ぐ
- ・ 普段は透明だが、利用者が施錠すると中が見えなくなる最先端トイレの導入
- ・ 道内各地の新鮮野菜を札幌に集合させ、地産地消を進める
- ・ 愛媛では蛇口をひねればオレンジジュースが出てくるように、札幌ではスープカレーや牛乳が蛇口から出るスポットを観光用に作る
- ・ 搾りたての牛乳が直接蛇口につながり、いつでも牛乳が飲める仕組みづくり
- ・ 全道で地下鉄整備を進め、北海道の最南端から最北端までを地下直通にする
- ・ レンタカーのサービスを見直して、「乗り捨て」がしやすい仕組みをつくる
- ・ 無料の駐輪場を増やして無断駐輪による盗難を防止するとともに、車ではなく自転車での移動を推進していく

【Eグループ：参加者5名】

■社会

- ・ 残業は20時までとし、夜は家庭や趣味の時間を大切にできる就業環境を整備する
- ・ 全市民ヨガ大会を開催し、札幌市民の健康を維持する
- ・ 「ウォーキング月間」で1ヶ月の合計歩数で競い合い、上位には札幌の特産品を贈呈する
- ・ 歩数によってポイントが貯まる仕組みを作り、ふるさと納税で使えるようにする
- ・ 大通公園でスキーやスケートを楽しめるようにする
- ・ サイクリングロードの整備を進め、市内全域で自転車での移動を増やす。
- ・ 「ボウリング行こうぜ」の代わりに、「カーリング行こうぜ！」を推奨する

■環境

- ・ 道路沿いに花を植え、花壇を設置して、歩いているだけで癒されるような街並みをつくる
- ・ チカホに動く歩道を設置し、スーツケースなどの荷物を持つ人の移動を楽にする
- ・ ロードヒーティングを拡充し、雪かきに悩まない仕組みづくり
- ・ 道路の一方通行を減らし、逆走による交通事故を回避する
- ・ 東京や海外にある有名ショップを札幌に招致し、買い物をより一層楽しくする
- ・ 冬の移動も困らないように、自転車でチカホをスイスイ移動出来るようにする

【Fグループ：参加者4名】

■経済

- ・ 地下 & 上空を効果的に活用するための大構想を考え「冬でも元気に活動することが出来る」まちにする
- ・ 雪が積もっても自由に動ける「空飛ぶ車」を開発し、ドローンシティ化を進める
- ・ ポロクルのさらなる普及を狙い、地下にも設置を進め、ユーザーを増やす
- ・ 観光業の更なる発展を目指し、アイヌ文化の保護と発信をより一層進める
- ・ 札幌に国際空港をつくり、海外との結びつきを強める
- ・ リモートワークがしやすい coworkingスペースがいたるところにあり、自由な働き方が実現されている
- ・ 交通の便が良く、家賃も安いまち
- ・ 地下鉄延線&地下空間の拡大で雪に負けないまちにする
- ・ 若者向けに除雪エコポイント制度を作り、除雪を通じた世代間交流とポイント獲得してもらう

■環境

- ・ 多言語に対応した「アウトドアアプリ」を作成し、外国人でも北海道の自然を満喫しやすくする
- ・ AI 診断を活用し、一人一人にパーソナライズしたおすすめ観光情報と飲食店を案内できるようにする
- ・ アプリ上で道内動物の生息域や、観察スポットが表示されるようにする
- ・ 様々なアウトドア情報やサバイバル知識を教えるアプリを作成
- ・ 公園でスキーやアイスホッケー、そり滑りが出来たり、体育館でカーリング出来たりなど冬遊びが楽しめる
- ・ フィンランドをお手本に、幼少期からの森林教育を行う
- ・ 雪をエネルギーに変えられる仕組みを札幌主導で開発し、全道に普及させていく
- ・ Air Quality Monitor をまちに設置して適切な換気をする

◇ワークショップ当日の様子



第9回ワークショップ 北海道スポーツ専門学校

令和4年10月13日（木）15:00-16:30

テーマ：私たち・札幌市が、2030年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【Aグループ：参加者4名】

■スポーツ・健康

- ・ 札幌の雪を活かした冬のイベントで、様々な世代が気軽に運動を出来るようにする
- ・ スポーツツーリズムの誘致を行い、観光とウィンタースポーツを通して心身ともにリフレッシュしてもらう
- ・ 札幌の雪を活かしたサバイバルゲームを企画し、新しい層の観光客を誘致する
- ・ まち中に行ったついでに気軽に立ち寄れる、道具の貸し出しが可能でシャワーを完備した駅近のジムを作る
- ・ 北海道発のスポーツブランドを世界に発信する
- ・ 札幌発祥のアパレルブランドを作り、札幌からトレンドを発信する
- ・ 雪を活かしたスポーツとして、大人が本気で行う雪合戦のイベントを開催
- ・ モルックの札幌代表チームをつくる

■経済

- ・ JR札幌駅の屋上に露天風呂を設置し、駅近で気軽に極楽気分を味わえるようにする
- ・ 特産品を豪快に巻いた、札幌発祥のクレープを開発する
- ・ 大通公園で一休みできる足湯スポットを設置する
- ・ 札幌味噌ラーメンを誰にも真似されないように独自のガイドラインを作成する
- ・ 時計台やテレビ塔に勝る背の高いタワーを建ててランドマークをつくる
- ・ 札幌駅を最先端技術によって、スタイリッシュにバージョンアップする
- ・ 筋トレ好きをターゲットにした、札幌の食材を使ったヘルシー料理専門店を開業

【Bグループ：参加者4名】

■スポーツ・健康

- ・ 体育館を無料開放し、老若男女問わず気軽に運動出来るようにする
- ・ うつ病が減るように、手軽に体を動かせる場をいたるところに用意する
- ・ 試合会場に行かなくてもスポーツ観戦を楽しめるように、大通公園に大型ビジョンを設置する
- ・ 市営の体育館を増やし、利用者で混雑することなく思い切りスポーツができる環境づくり
- ・ 飲酒運転がなくなるように、飲食店側からの確認を徹底させる仕組みづくり
- ・ 犯罪がなくなるように、防犯カメラだけでなく、新しい防犯グッズや仕組みを考案する
- ・ ネットの情報に惑わされないように学校でのメディアリテラシー教育を強化する

■環境

- ・ CO2 を 10%削減し、札幌を環境に優しいまちにする
- ・ 札幌オリジナルエコバックを無料配布するとともに、レジ袋の使用を完全廃止する
- ・ ごみの分別が徹底されるように、分別表にイラストを使用し分かりやすくする
- ・ ペットの殺処分を減らすために札幌独自のルールを制定する
- ・ 大通公園のイルミネーションは冬だけでなく、一年を通して様々なテーマでライトアップを行う

【Cグループ：参加者4名】

■スポーツ・健康

- ・ 誰からも邪魔されることがない、プライベート空間が確保された温泉とサウナを充実させる
- ・ 札幌市内の家の蛇口から温泉が出るようにし、自宅の湯船でも温泉が楽しめるようにする
- ・ サウナの中でスポーツ観戦が出来るようにする
- ・ 大通公園に大型ビジョンを常設し、いつでもスポーツ観戦が出来るようにする
- ・ VR 環境でスポーツ観戦が出来るようにし、試合会場で観戦している様な臨場感を味わえる
- ・ 身近にスポーツが出来る場所を増やし、老若男女問わず誰もが健康を維持できるまちする
- ・ お金を支払わなくてもスポーツに触れられる施設や場所を作る

■社会

- ・ 自転車専用道路を札幌市内に張り巡らせる
- ・ 空を飛んで自由にどこにでも移動出来るようにする
- ・ ペットの養育費負担を市が支援する仕組みをつくる
- ・ 「音楽のまち札幌」を目指し、全ての家を防音仕様にして、歌や楽器を自由に楽しめるようにする
- ・ 生ごみを肥料にしてくれるごみ箱をまち中に設置する
- ・ 札幌発のスポーツブランドが販売するスポーツウェアを、札幌市民は 20%オフで購入出来る組みづくり
- ・ チカホを延長し拡充させ、冬でもあたたかく歩けるまちを実現させる

◇ワークショップ当日の様子



第10回ワークショップ 札幌市立大学

令和4年10月14日（金）10:40-12:10

テーマ：私たち・札幌市が、2030年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【Aグループ：参加者6名】

■社会

- ・ 歴史的建造物が少ないので、今ある建物を大切に保存し、新しい建物も作っていく
- ・ 狸小路商店街を南北方向にも伸ばす
- ・ 空が見える透明な屋根を採用した新しい商店街をつくる
- ・ ビルとビルを繋ぐ連絡通路を商店街化する
- ・ ビルの屋上を繋いで空に近い大きな広場をつくる

■環境

- ・ チカホに人工芝を敷き、木を植える
- ・ チカホ内に上部から光が差し込むような大きな螺旋階段を設置するなど、チカホを明るい空間にする
- ・ 大通公園の噴水の下を水槽にして、地下にミニ水族館を建設
- ・ 地下に保護猫用のキャットウォークを張り巡らせる

【Bグループ：参加者6名】

■社会

- ・ ご近所同士で積極的にあいさつが交わされ、助け合いが生まれる仲の良いまち
- ・ ベビーカーや車椅子が移動しやすい設計が根付いたまちづくり
- ・ 「500m美術館」なども活用し、まち中に広がる基盤の目（直線）を活かしたエンターテインメントを作る
- ・ チカホの壁を大型ビジョン化し、ウィンタースポーツのスピード感や臨場感を味わえるようにする
- ・ チカホに一定の期間で変化する映像を放映し、チカホに行くことが楽しみになるように活用する
- ・ LGBTQパレード（プライドパレード）が毎月開かれるようにする
- ・ 狸小路をはじめとして、まちに音楽が流れるフェスが開かれるようにする
- ・ JRのホームにも可動式ホーム柵が配置され、安全性を高める
- ・ 個性的な建物を建設する等、まちづくりを工夫し、景観に「美」を感じるようにする
- ・ 日本最大級の美術館や博物館を作るなどして、アートに敏感な感受性を育てるまちにする
- ・ JR札幌駅に凱旋門を建設するなどして、パリに次ぐ、第二の芸術の都「札幌」を目指す

■環境

- ・ 全てのエネルギーが再生可能エネルギーに代わっているまちにする
- ・ 赤レンガ前広場など、各所で街路樹を増やし、リラックスできるスペースを増設する

- ・ ごみステーションの周りにごみが散乱しないように、蓋の設置が徹底されていて、綺麗なまちにする

【Cグループ：参加者6名】

■社会

- ・ 氷でできた遊園地を作るなど、冬でも楽しめる施設を増やす
- ・ 冬でもウィンタースポーツで遊べる公園を増やす
- ・ アスレチック公園がいたるところにあり、子どもたちが遊びながらアスリート並みの技を身につけていくまち
- ・ 自然に囲まれながら仕事が出来て、公園内にワーケーション施設もあるまち
- ・ マンションごとにイベントが開催されるなど、住民同士に繋がりがあまるまちづくり
- ・ 消耗品や日用品だけではなく、車なども全てオンラインで購入できる仕組みづくり
- ・ 札幌市内どこでも、盲導犬の付き添いが可能になっているまち
- ・ 高齢者専用のレンタルカーを整備しているまち

■スポーツ・健康

- ・ パーソナルジムを増やし、市民が健康的な身体を手に入れやすいまち
- ・ オリジナルのスポーツ用品を作るイベントが開催されるまち
- ・ スキー板、スノーボード板などスポーツ用品のデザインコンペが行われるまち
- ・ 雪が降る中でもジョギングやウォーキングを行えるように、屋根のある道が整備されているまち
- ・ 雪道でも利用できるポロクを設置する（雪道用自転車レンタルサービス）
- ・ 高齢者や未就学児が使える三輪車レンタルサービスを整備する
- ・ 歩くスキーのコースがある公園を増やす
- ・ カウンセリングを受けられる「お悩み相談会」を市の施設で積極的に開く
- ・ 駅直結型のスキー場を建設する（例：札幌駅に滑り降りるスキー場など）

【Dグループ：参加者6名】

■社会

- ・ 昔ながらの商店街を復活させ、人の温かさが感じられるまちにする
- ・ 保育国のタイを参考に、子育てしやすいまちづくりを進める
- ・ 学校に行かずとも家や学校以外の場所で勉強ができる制度や仕組みを整える
- ・ 雪かきサポートを入口として、あたたかい地域コミュニティができるまち
- ・ 多様性が認められていて、サードプレイスがあるまち

■経済

- ・ どこを切り取っても思わずインスタにあげたくなるような、日常が映えるまちづくり
- ・ 文化や芸術が身近にあり、市民の教養が育まれるまち
- ・ 賃金と雇用機会を均等化し、お金の余裕が生まれるまち

- ・ ちぢれ麺で有名な札幌のラーメンを世界中に発信していくまち

【E グループ：参加者 6 名】

■ 社会

- ・ バス停にベンチを設置し、お年寄りにやさしいまちにする
- ・ 大型商業施設よりも小規模な個人店が活性化するまちにする
- ・ 優しい運転を根付かせて、交通事故が少ないまちにする
- ・ 街灯の数を増やして、夜でも安心して歩けるようなまちづくり
- ・ 建物の外観を統一することで、街並みをおしゃれにする
- ・ 空き家などを活用して 1 人で勉強ができる静かなスペースを増やす
- ・ ドローンでごみ収集をできる技術を開発する
- ・ ドローンがまちの中をパトロールし、犯罪を防止するまちづくり
- ・ お店のジャンルごとに作られたマップで、好みに合わせた札幌探索ができるまち

■ 環境

- ・ 自然とまちが共存するまちづくり（シカと人間の共存など）
- ・ 古い建物も新しい建物も共存している街並み
- ・ 歩きタバコをなくすために喫煙所が数多く設置されているまち
- ・ 「雪のまち」でありながら室外と室内の寒暖差がないまちづくり
- ・ 最新技術を活用して時計台をスタイリッシュにリニューアルする

【F グループ：参加者 6 名】

■ 社会

- ・ 観光客のマナー違反や治安悪化の問題を解決するために、日本式ガイドブックを制作する
- ・ ドローン便を市内のスーパーに配備し「買い物難民」ゼロを目指す
- ・ クマと共生できる社会を作る（自然と人里の曖昧な境界をなくすなど）
- ・ 至る所にベンチを設置し、自然を感じながら休める場所を整備する
- ・ ラーメンのテーマパークを通して食の魅力を発信する
- ・ 野良猫を保護するために、猫カフェをつくる
- ・ 札幌のラーメンをもっと多くの人に食べてもらうため、札幌独自で「0 キロカロリーラーメン」を開発する
- ・ カジノや娯楽施設を札幌に招致し、新しい層の観光客増加を目指す
- ・ 「密な空間」を撤去し、適度な人の量になる空間をデザインする

■ スポーツ・健康

- ・ 冬は暗くなるのが早いので、まちを明るくする工夫をすることで、メンタル面でもポジティブな心を維持する
- ・ 健康寿命 80 歳を目指し、まち中に運動施設や巨大な温泉、サウナ施設を設置する

- ・ 娯楽施設を充実させ、ストレス解消率が全国一高いまちを目指す
- ・ 車の使用禁止区域を設け、ランニングやウォーキング、サイクリングを推進し、健康増進を進める

◇ワークショップ当日の様子



第 11 回ワークショップ 札幌大学

令和 4 年 10 月 17 日（月） 9:00-10:30

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき（達成したい） まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 4 名】

■ 経済

- ・ 企業のサテライトオフィスを増やし、雇用促進を進めていく
- ・ ネットショッピングではなく、実際に来店して買い物をしたくなるような接客や店構えがあるお店をつくる
- ・ 高校生がクラウドファンディングなどを活用し、商品やサービスをプロデュースするなど経済に影響を与える
- ・ ふるさと納税を利用して、地域の PR が出来る仕組みを高校生と一緒に考える

■ 環境

- ・ 林業と関わる中で、ゆっくりとした時間を過ごせるようにする
- ・ 四季がある街並みを守る
- ・ 札幌の企業単位で自然体験ツアーを実施する
- ・ 林業についての説明会を通して、自然を学習する機会を作る
- ・ ビルの屋上で養蜂し、「都会ハチミツ」としてブランド化する

【B グループ：参加者 4 名】

■ 経済

- ・ 障がいに関する勉強会を社内で開いて理解を深める
- ・ 作業の効率化を見直して、健常者も障がい者も、共に生き生きと働ける環境づくり
- ・ 障がい者がそれぞれ持っている長所を活かしながら働ける環境をつくる
- ・ リモートワークを推進して、障がい者の入社時のハードル下げる

■ 環境

- ・ ビオトープをもっと知ってもらうために学校の授業で取り上げる
- ・ ビオトープで守る動物を増やす（例：野良猫や野良犬など）
- ・ 害虫対策を行い、セラピー効果に特化したビオトープを作る
- ・ 浄水場と連携し、水辺をきれいに保ち、害虫対策も行う

【C グループ：参加者 3 名】

■ 社会

- ・ 日本一失業者が少ないまちにする
- ・ AI を利用した体調管理システムをペットにも対応させる

- ・ 安全に散歩が出来るペット専用の道を整備する（安全散歩ロード）
- ・ 車がなくてもスムーズに移動できるよう、レンタル自転車とチカホの利便性が向上している
- ・ 大通公園では毎日何かしらのイベントが開かれていて、いつ来ても楽しいまち
- ・ ペット可の公園が増え、ペットも飼い主ものびのびと過ごせるまち
- ・ ペットのシェアシステムを導入し、旅行や出張に行きやすく、ペットを置いてきぼりにしない社会にする

■スポーツ・健康

- ・ 人体に対する倫理や教育制度を見直し、命の重さや価値を考える授業を積極的に行う
- ・ 動物から人への臓器移植など、最先端医療技術の開発を行う

【Dグループ：参加者3名】

■環境

- ・ 各公園にごみ箱を設置し、ポイ捨てを減らす
- ・ 緑を増やすために植樹を行う
- ・ 脱プラスチックに向けて札幌市がオリジナルの箸を支給し、全市民がマイ箸を持ち歩く
- ・ コンビニのおでんは容器持参に限り、販売する
- ・ 住宅街に自然を増やすため、学校単位で道路の花壇に花を植える

■社会

- ・ 引きこもりの高齢化が進んでいることから、在宅ワークを推進し、自宅でも仕事ができるようにする
- ・ 投資に関する教育を小中学校から始める
- ・ オンラインレッスンなどで、投資を体験する場を設ける
- ・ 高校生のうちから投資に触れてもらい、アルバイトの収入で少額投資をスタートしてもらおう（18歳から可能）
- ・ 外国人観光客のために、多言語表記のメニュー表を設置する

【Eグループ：参加者4名】

■経済

- ・ 飲食店応援クラウドファンディングで住宅街にポツンとあるような個人店を支援する
- ・ 札幌市民も札幌に納税したくなるような返礼品を用意する（ビール、ジンギスカン、クーポン・金券など）
- ・ NFT（デジタル資産の所有者を証明する技術）を活用し、札幌出身者のデジタルアートや音楽を「ふるさと納税」として販売する

■スポーツ・健康

- ・ 医療器具が揃っていない地方都市でも、札幌の医師による遠隔手術が受けられる技術の整備
- ・ 医師の診療を遠隔で簡単に受けられるアプリを導入
- ・ 札幌を医療情報のハブ拠点となるような世界的都市にする

【Fグループ：参加者3名】

■社会

- ・ 若い世代がYouTubeなどの動画サービスで、国や行政の制度を知ることが出来るようにする
- ・ 生活保護への偏見をなくすために、チカホ広告などを活用して発信していく
- ・ 生活保護受給者とそうでない人との接点をつくる
- ・ 育児や家庭に余裕が持てるように、町内でのコミュニティづくりを進めていく
- ・ 紙の書類だけでなく、スマホも活用して生活保護を受け取りやすくする
- ・ 漫画などを使って、若者に分かりやすく社会問題を知らせる

■スポーツ/健康

- ・ 電子機器から一定期間距離をとり、ストレスを軽減させる「デジタルデトックス旅行」を企画推進する
- ・ 昼寝の時間を全ての会社に設ける
- ・ 瞑想や昼寝を気軽に出来るスペースを増やす
- ・ スポーツ大会の直前に、精神をコントロールするのに役立つイベントや講座を行う
- ・ 札幌でのスポーツ大会といえば、「心がととのう」というブランディングを行う
- ・ 札幌のサウナブームと被せて、「マインドフルネス」に関する企画を行う
- ・ スウェーデンの「フィーカ^{※4}」文化の様におやつや休憩時間を設けて心身ともに幸せになる取り組みを推進
※4「フィーカ」という10時頃と15時頃の1日2回設けられているスウェーデンの習慣
- ・ 身体障がい者も取り組みやすい「eスポーツ」を流行させる
- ・ 水族館や動物園に併設する、「第三の居場所」をつくる

◇ワークショップ当日の様子



第 12 回ワークショップ 札幌大学

令和 4 年 10 月 18 日（火） 9:00-10:30

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 5 名】

■社会

- ・ 副業で月に 5～10 万を稼げるまちにする
- ・ レンタル彼女だけではなく、友達や彼氏など、様々な人のレンタルがブームになっているまち
- ・ 気軽に副業ができる制度や仕組みが根付いているまち
- ・ 合法的な「せどり」の方法を学べる学校があるまち

■環境

- ・ 漁師と連携し、廃棄品の利活用を模索する
- ・ 破れた網を活用したアパレルブランドを立ち上げる

【B グループ：参加者 4 名】

■経済

- ・ 起業家が学校で授業をしたり、学生向けの融資制度を整えたりと、起業しやすい環境が整うまち
- ・ 大手企業からスタートアップ企業まで働く人が一堂に会して研修を行うなど、成長意識の高いまち
- ・ 出店場所や出資金開設など、起業するためのノウハウが記載されたマニュアルを公表する
- ・ スタートアップ企業同士で企業間の交換留学を行い、個人の能力開発がされるまち
- ・ 札幌の特色を活かした起業方法について、楽しく学べるように漫画やアニメを作成する

■環境

- ・ 林間学校やイベントで里山の大事さを伝え、若い世代が自然に興味を持てるまちづくりを目指す
- ・ ウッドチップを芳香剤や入浴剤などに再利用し、札幌発のオリジナルブランドをつくる

【C グループ：参加者 5 名】

■経済

- ・ ハイスペック PC の普及により、労働人口の半分がテレワーク/リモートワークをするまち
- ・ テレワーク人口が現在の 10 倍以上に増加し、旅行楽しみながらの仕事が当たり前になったまち
- ・ リモートでも昼食の提供をし、地元の食材を使った「地産地消ランチ」が楽しみになるまち

■スポーツ・健康

- ・ スポーツ選手と観客を SNS で繋ぐことで互いの距離を縮め、選手のモチベーション向上を図る

- ・ 音楽と声援を融合させたプロジェクションマッピングにより、スポーツ観戦をより一層楽しくする
- ・ 勝負するよりも楽しく、簡単に取り組めるスポーツがあるまち

【Dグループ：参加者4名】

■社会

- ・ オンライン上で性別や戸籍の変更が誰でも気軽に出来るまち
- ・ オールジェンダートイレがまち中にたくさんあるまち
- ・ LGBTQなどのジェンダーを題材とした絵本やアニメを学校現場で扱うなど、当事者以外でも考える機会があるまち
- ・ オンライン通話やSNSを活用したLGBTQについての相談所の設置に力を入れているまち

■環境

- ・ 札幌市内の養蜂場で新たな「はちみつブランド」立ち上げ、はちみつ関連のお土産を名物にする
- ・ 新しい札幌の土産としてサプリメントやローヤルゼリーを開発し、心と体の観光満足度UPを狙う

【Eグループ：参加者4名】

■社会

- ・ 大学生が空き家を活用するプロジェクトを推進し、大学のゼミで継続的に運営する
- ・ 学生のうちから経営を体験できる環境を整え、人材育成に強いまちをつくる
- ・ 空き家を実業団のオフィスや練習場、合宿施設として活用し、日本全国から団体客を誘致する
- ・ メンテナンスされた空き家を貸し出し、学生アスリートの合宿施設にする

■スポーツ・健康

- ・ 有名スポーツ選手が、身体のメンテナンスとして使用する「再生医療専門病院」を札幌につくる

◇ワークショップ当日の様子



第 13 回ワークショップ 札幌市立大学

令和 4 年 10 月 18 日（火） 17:45-19:15

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき（達成したい） まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 3 名】

■スポーツ・健康

- ・ 冬場でも利用できるグラウンドの整備に加えて、アスリートによる子どもたちへの指導をカリキュラム化
- ・ 雪や寒さを活かした、北海道独自のスポーツ育成方法を確立する
- ・ 「雪かき」を健康的なスポーツととらえ直し、学校や自治体主導で全世代の健康増進を進める
- ・ ジビエ料理が健康食として認知され、家庭でも食べられるようにする

■社会

- ・ チカホでの GPS 活用や雪道でのバリアフリー化など、インクルーシブデザインが行き届いているまちにする
- ・ お年寄りが料理や手芸を子どもたちに教えるなど、地域での多世代交流が盛んなまちにする
- ・ お年寄りでも自分で作った商品を販売出来るなど、何歳になっても新しいことにチャレンジできるまち
- ・ 学校主体で地域のお祭を開催し、学生が率先して地域に出ていくことで、やりたいことに挑戦出来るまちにする
- ・ 地域の将来を考えるワークショップを行い、地域住民がまちのことについて見つめ直す機会をつくる

【B グループ：参加者 3 名】

■社会

- ・ ペット籍を導入したり、誕生日にペットフードが届いたり、ペットを大事にする文化を作る
- ・ 安心して保護犬を飼えるように、しつけ教室の受講を義務化するなど、サポートを充実化する
- ・ 保護施設かブリーダーからペットを購入する文化を根付かせ、ペットショップでの販売を減らす
- ・ 大きなドッグランを整備するなど、ペットが幸せに暮らせる環境や施設をつくる
- ・ ふるさと納税でペットの保護施設を維持管理し、返礼品として円山動物園チケットを贈呈する

■環境

- ・ 規格外野菜を餌に与える「エゾシカ公園」を開設し、エゾシカの保護を推進する
- ・ エゾシカのそり滑りなど、子どもがシカに触れられる環境をつくる
- ・ エゾシカ専門のセレクトショップを展開し、ジビエ料理やインテリアグッズ、シカ革製品を販売する

【Cグループ：参加者4名】

■社会

- ・ 里親のハードルを下げるために、日帰りで里親体験ができるよう制度を整備する
- ・ 町内会や社会福祉協議会を主体として「ご飯が食べられるおうち」の認定を行い、食による貧困を減らす
- ・ 親がいない子ども専用のシェアハウスを開設し、子どもたちが幸せに過ごせる場をつくる
- ・ 帰ってきたときに施設の人だけではなく、友達がいる幸せを強く感じられるコミュニティづくり
- ・ フードバンクと連携し、町内会単位で、週に1度程度、炊き出しや相談の場を設ける
- ・ 片親家庭が、地域の事業者やご近所さんと交流できる場を作る

■環境

- ・ 市民活動に意欲的な大人を中心に、地区ごとに小規模の任意団体を立ち上げる
- ・ まち中でデジタルサイネージやプロジェクションマッピングを活用して、かつて北海道にあった美しい景色や絶滅が危惧される動物の姿を投影し、注意喚気を行う
- ・ 温泉の入湯料の一部を「自然環境」または「動物」、どちらの保護に活用するか選択し、寄付できる制度をつくる

◇ワークショップ当日の様子



第 14 回ワークショップ 札幌国際大学

令和 4 年 10 月 21 日（金） 10:40-12:10

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 6 名】

■ 社会

- ・ 日本一英語力の高いまちになり、国際交流ができるように留学生が働くカフェを増やしていく
- ・ ハラル食材の対応、礼拝施設の配置、理解のあるレストランや施設を増やし、ムスリムフレンドリーなまち
- ・ 海外の方でも分かるメニュー表記を標準化し、世界とつながるコミュニケーションのまち

■ スポーツ・健康

- ・ 駅内での進み方を床面のブロック等で分かりやすく整備し、地下鉄を乗降しやすくする
- ・ まち中の駐車場の増加や駐車場料金の引き下げ、天候に左右されずに出かけたくなるまち
- ・ まち中以外にコミュニティバスを走らせ、高齢者でも外出のしやすい仕組みを作る

【B グループ：参加者 6 名】

■ スポーツ・健康

- ・ コンビニ内にカウンセリングコーナーを設け、気軽に相談できる第 3 の居場所づくりを進める
- ・ 学校でメンタルケア教育を普及させ、うつ病患者の未然防止を積極的に行う
- ・ 気軽に動物と触れ合える場を増やし、ストレス発散できる機会を増やす
- ・ 冬季五輪開催時に選手が選手村に家族を呼べるようにし、札幌にお試し移住できる制度を作る

■ 社会

- ・ 無償のウォーターサーバーを市街地に配置し、ペットボトルの消費を減らす
- ・ 札幌市内の野菜や肉を使用して、給食を無償化する
- ・ 食品ロスを活用した炊き出しが、まちの至る所で行われている

【C グループ：参加者 6 名】

■ 環境

- ・ アースデイ札幌を開催し、環境意識を高めるイベントを定期的に行う
- ・ 小中学校の生徒が参加して、ごみ拾い大会を実施し、入賞者には市内スポーツ観戦チケットを授与する
- ・ エコバッグ持ち歩きの推奨期間をつくり、大々的に宣伝することでエコバック文化を作る

■ 経済

- ・ プロのスポーツ選手も使いたくなる札幌発のスポーツメーカーを設立する

- ・ 大きいサイズ専門の服やグッズが気軽に手に入るまち
- ・ 安くて品揃えが良いアウトレット施設を札幌市内中心部に作る
- ・ 安くてデザインが良い、札幌の気候にフィットした服のブランドを立ち上げる

【Dグループ：参加者5名】

■社会

- ・ 光って音が出る野球道具等で、今よりエンタメ要素を追加した野球を再開発し、観客増を狙う
- ・ アスレチック公園の充実化で、健康意識を促進する
- ・ 雪が自然に溶ける人工芝をつくり、冬でも緑に囲まれるまちづくりを目指す

■環境

- ・ ごみ箱をまち中に設置してポイ捨て減らす取り組みをする
- ・ 海に溶けるプラスチックの開発をして、クラウドファンディングを利用して実現する
- ・ 札幌発のマイクロプラスチック活用のスポーツファッションメーカー設立する
- ・ マイクロプラスチックと牛革合成皮のグローブメーカーをつくる

【Eグループ：参加者6名】

■経済・まちづくり

- ・ モバイル充電のシェアサービスを充実させ、充電場所に困らないようにする
- ・ 札幌市内のロードヒーティングの普及率を7割にする
- ・ チカホを充実化することで、歩道を無くし、道路をさらに広くする

■環境

- ・ プラスチックのフォークやスプーンの使用を禁止する
- ・ ビニール袋廃止し、エコバッグの持ち歩きを標準化する
- ・ 札幌を2030年までに、日本一プラスチックフリーなまちにする
- ・ 電気自動車の充電スポットのガソリンスタンドへの設置を義務化する

【Fグループ：参加者5名】

■社会

- ・ 札幌のエリアブランディングも兼ねて、地域おこし協力隊を募集する
- ・ 大通公園で国籍関係なく参加でき、各国の応援スタイルを体験できるスポーツ観戦イベントを開く
- ・ 看板に複数の言語を表記し、通訳対応可能な場所を増やしていく

■スポーツ・健康

- ・ 札幌市内にリラクゼーション施設を充実させ、平日昼間でも昼寝がしやすい文化を作っていく

- ・ 公園の一角にマッサージチェアや、ゆったり休める場所を配置していく

【Gグループ：参加者6名】

■社会

- ・ 中華街のような外国人街を作り、国際交流のハブにする
- ・ ヘリタクシーの増加で、札幌の夜景を日本だけでなく世界に発信していく
- ・ 札幌の涼しい気候を活かし、夏でも外に長時間居られるテーマパークをつくる
- ・ スポーツ施設の周りにデイキャンプできる施設を併設し、自然と運動がテーマの公園を作る

■スポーツ・健康

- ・ 札幌限定の休日をつくり、札幌市民が月1回のスポーツ観戦が無料になる地元割を実施する
- ・ スポーツクラブに色んな年齢層のクラスを作り、シニア選手の育成を進めていく
- ・ 北欧諸国との交流を活かして、札幌独自の新しいウィンタースポーツを開発する
- ・ スポーツで健康になったら、その健康指数により、年金給付額が上がる制度を作る
- ・ どの会社でも毎年運動会が開かれるようになる
- ・ スポーツ外傷の治療費が無料になる

【Hグループ：参加者5名】

■経済

- ・ 複数のレジャー施設に通い放題になる札幌独自のサブスクリプションサービスを作る
- ・ 札幌の学生を対象にカーシェアを安くし、お金による学生の旅行格差を縮める
- ・ 楽器の時間貸しレンタルサービスをつくって、路上ライブがたくさん行われるようにする

■環境

- ・ 農産物や牛、鶏、豚を道内で生産された新鮮食材が受け取りやすいまちにする
- ・ 水の地産地消「地域活性“水”」を安く購入できる

【Iグループ：参加者6名】

■経済

- ・ ライドシェアリングで、冬場のガソリン代を削減しやすくする
- ・ 海外の人向けに、利用しやすいシェアハウスやホテルを作り、1日1回は英語を話す機会づくり

■環境

- ・ 地域で獲れた野菜や食肉のみを使ったお店を、市内に100箇所設置する
- ・ 農業高校と連携し、高校生が野菜を作って販売できる拠点の整備を進める
- ・ 農業体験と酪農体験を義務教育に導入し、第一次産業への理解を含める機会を持つ

【Jグループ：参加者 5 名】

■ 社会

- ・ 各所が雪まつりの開催会場になり、市内を巡ることで観光客が楽しめる特典を整備する
- ・ 子ども用品の購入補助など、子育て支援を充実させる
- ・ チカホに動く歩道を完備し、身体障がいのある方も移動しやすいまち

■ 環境

- ・ ポロ pay（札幌 pay）の開発で、札幌市民に還元する地域通貨の開発と運用を行う
- ・ 札幌市民が札幌の飲食店を札幌市外の人に 10 回紹介すると、食事券が還元される
- ・ 札幌市内の体育館を大人数で使えば、ポイントがつく制度を作る

【Kグループ：参加者 6 名】

■ 環境

- ・ 札幌アースデイの開催で、環境意識を高める日を設ける
- ・ 札幌市内中心部に古着回収ボックスを置き、回収した古着から服をリメイクできるシステムを作る
- ・ チカホで自転車が乗れる通路を作る

■ スポーツ・健康

- ・ 食べた食事を撮影すると、摂取した糖質や脂質を自動的に計算し、事前に設定した体形に合わせて、必要なカロリー消費行動を通知してくれるアプリを開発する
- ・ 冬季の心身、健康維持のためにカウンセリングがより身近に利用されるまちに
- ・ 平日昼間でも思い切り歌えるように専用 BOX を設置し、ストレスフリーに活用する

◇ワークショップ当日の様子



第 15 回ワークショップ 北陸銀行琴似支店
令和 4 年 10 月 21 日（金） 16:00-17:30

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 4 名】

- ・ ムーンショット目標^{※1}（ <https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/target.html> ）

※1 将来の社会課題を解決するために、人々の幸福で豊かな暮らしの基盤となる以下の 3 つの領域から、具体的な 9 つの目標を決定している。

- ・ アスリート養成・支援として、トレーニングセンターの充実
- ・ 部活動で指導者を選択できる仕組み
- ・ セカンドキャリアとして、企業融資や事業拡大補助金が充実している
- ・ 小さい頃からアントレプレナーシップ教育が盛んである
- ・ 子供に少額融資や就業機会を与える
- ・ 学校と企業との接続を図り、出前講座や出張講座を行い、アントレプレナーシップ教育をサポートし、義務教育時代から、「事業を興す」という思考を身に着ける
- ・ 移住者補助制度を充実化させる
- ・ モビリティの見直し、混雑の解消（例：地下鉄・コミュニティバス・信号の位置・右折レーン・路面整備）

【B グループ：参加者 5 名】

- ・ JR がより快適に利用できるようになる（例：遅延や運休のない JR、全 JR の座席配置が前向きシートになっている）
- ・ 手稲まで地下鉄延伸
- ・ 家庭内の子供の数に合わせて、住民税の削減制度の導入
- ・ 地下鉄の利便性の向上（例：地下鉄運賃の引き下げ、ダイヤの見直し、地下鉄環状線化）
- ・ 札幌中心地の全てロードヒーティング化
- ・ 寒冷地向け電気自動車の開発（例：馬力向上、バッテリー上がりにくい仕組み）

【Cグループ：参加者4名】

- ・ フードシェアリングの一環として、閉店前のエシカルメニュー※2提供をテイクアウトで提供する

※2 地球環境に配慮している、フードロスに配慮しているメニューのこと

- ・ 医療×スポーツで土日の校庭を活用した運動習慣見直しプログラム作成
- ・ 各町内会での地域住民と若者のつながりの向上を目的として、「中高年と中高生のカラオケ交流」や「高齢者へのスマホ講座」を行う
- ・ 病院とスポーツジムが提携を結び、人間ドックの結果次第でその人にあった運動カルテを提供し、提携先のスポーツジムで運動するプログラムを作成
- ・ ジェンダー平等の観点から、小学生の段階から家事教育を施し、性別に関係なく家事ができるようにする

◇ワークショップ当日の様子



第 16 回ワークショップ 東海大学

令和 4 年 10 月 24 日（月） 17:10-18:40

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 5 名】

■スポーツ・健康

- ・ フットサルを冬のオリンピック競技にし、札幌の子どもサッカー競技者にプロの試合を見せる
- ・ 雪中サッカーの競技化するなど、札幌の雪を活かしたスポーツを生み出す
- ・ 大通公園で VR カーリングができるなど、カーリングをもっと身近にする
- ・ 札幌発のサウナグッズブランドを立ち上げ、札幌をサウナーの聖地にする

■経済

- ・ モエレ沼公園を貸し切って学校対抗の雪まつりを行い、雪像づくりを文化にする
- ・ 札幌環状線を作り、地下鉄の利便性を高める
- ・ 電線の地中化を進め、札幌を写真映えする街並みに整える
- ・ 雪ミクなどのキャラクターを生み出すことで、札幌にオタクを誘致し聖地巡礼のまちにする
- ・ 有名私大や企業誘致をして、札幌の雇用を増やし経済を活性化する
- ・ 札幌の夏祭りを作ることで、新たな夏の風物詩にする
- ・ 「札幌三大夜景」を前面に押し出した観光パッケージツアーで観光客を呼び込む
- ・ 温泉施設改修やバス路線の改善を進め、定山渓や豊平峡温泉を再活性化する

【B グループ：参加者 5 名】

■スポーツ・健康

- ・ スポーツを頑張りたい子どもたちに経済支援を行い、スポーツのハードルを下げる
- ・ 全小学生に、野球観戦チケットを 1 シーズンにつき 1 枚ずつ配布し、子どもがスポーツに触れ合いやすいまちになる
- ・ お金がなくてスポーツ用品を買えない人向けに、スポーツ用品リユースのアプリを開発する
- ・ 夏でもウィンタースポーツができる体験施設をつくる
- ・ 使わなくなったスポーツ用品を海外観光客に配り、札幌観光でウィンタースポーツができるようにする
- ・ チームラボのように、ネオンを使ったポイント制のゲームを開発し、大通り公園に体験施設を作る

■経済・まちづくり

- ・ 多国籍料理のお店を増やして、「多国籍料理商店街」を作る
- ・ 学生が下校中に行ける商業施設を地下鉄沿線に開業する
- ・ 日本新三代夜景の一つである「藻岩山が見える夜カフェ」を流行らせる

- ・ 夜景スポットの近くに、デートスポットになるおしゃれな飲食店をマルシェ形式で呼び込む
- ・ 藻岩山ロープウェイから見える「大文字焼き」新イベントを行う

【Cグループ：参加者5名】

■スポーツ・健康

- ・ ディズニーやUSJに並ぶような、札幌に雪を活かしたスポーツテーマパークを作る
- ・ スキー場に屋根をつけドーム型にすることで、吹雪の時でも楽しくスキーができる
- ・ 初心者の人でも楽しめる滑り方ミニレッスンが、スキー場にて無料で受けることができ、人工の雪を降らせて、降雪量に左右されることなくスキーを楽しめる環境を整えられている
- ・ 道具をすべて借りられる「手ぶらで行けるスキー場」を整備する
- ・ 大通公園や札幌駅にオープンマイクを設け、カラオケでカロリー消費&ストレス解消イベントを行う
- ・ 駅や公園にパブリックピアノやドラムを設置して、音楽に親しみやすい場所にする
- ・ ピアノの音がする階段を設置して、楽しく気軽に運動できるようにする
- ・ 歩いた距離や時間に応じて、飲食店で使えるポイントがもらえる制度を作る

■環境

- ・ 飲食店の調理や接客のロボット化を進めていく
- ・ 循環型社会の推進に向けて、3Rに関するイベントを定期的に行う
- ・ 飲食店を住宅街にも増やすことで、地元経済の循環を活性化させる

◇ワークショップ当日の様子



第 17 回ワークショップ 北海道情報専門学校
令和 4 年 10 月 25 日（火） 15:15-16:45

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき（達成したい）まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 5 名】

■スポーツ・健康

- ・ スポーツ楽しみたい人向けに「初期費用の補助」または「安価な道具貸し出し」を行う
- ・ 小学生、中学生、高校生向けにスポーツの施設や道具の使用料に学割を適用する
- ・ 障がいを持つ方でも楽しめる、新しいスポーツ競技を札幌で考案し、オリジナルチームを結成する
- ・ ハンディキャップがある方でも、スポーツが楽しめるように義足などの道具補助を積極的に行う

■経済、まちづくり

- ・ 言語の壁をなくす取り組みとして、QR コードでどの国の言語も表示されるようにする
- ・ 電子マネーをどの国籍の人でも使いやすくするために、多言語対応を進める
- ・ リアルタイムでお店の残席状況がわかるように、スマホひとつでチェックできるアプリを開発する
- ・ 清田区や南区等の交通の便が悪いまちでは、乗り合わせの改善を制度化する

【B グループ：参加者 5 名】

■スポーツ・健康

- ・ スキー場、体育館等の利用料を下げ、誰でも気軽に楽しめるようにする
- ・ 道具レンタルの費用や手間を専用アプリで軽減し、スキー場に行くときに貸し出される仕組みにする
- ・ スキー板だけでなくウェアや手袋まで道具レンタルが豊富になり、手ぶらで行けるスキー場が増える
- ・ 価格が手ごろになり、手間も簡略化されることで、カラオケに行く感覚でスキー場にも通えるようになる

■経済・まちづくり

- ・ 冬の湿度をコントロールすることで、オフィスや学校に加湿器支給し風邪を予防する
- ・ 地下鉄にも荷物を置くスペースをつくり、荷物が通行の妨げにならないようになっている
- ・ 自動運転タクシー配車アプリやドローン運送の普及で、移動のハードルを下げる

【C グループ：参加者 5 名】

■社会

- ・ 道路を広くすることで、通勤ラッシュの渋滞を解消する
- ・ 市電ラッピングやマンホールのデザインをアイヌ文様にし、アイヌ文化を活用する
- ・ 空き地を活用して、学生がビジネスに挑戦できるきっかけを作る
- ・ コンセプトマンションの建設で、多様性が受け入れられる環境を整えていく

■環境

- ・ ジビエフェアを札幌中で同時開催し、ジビエ料理をより身近なものにする
- ・ 時計台で定期的にイベントを開催し、地元民や観光客が交流できる場所にする
- ・ 札幌駅全体にプロジェクションマッピングを投影し、大規模で幻想的なまちの姿を演出する
- ・ 学校単位で雪まつりをし、雪像づくりを通して、子どもたちが雪に触れる機会を作る
- ・ ビルの屋上で水耕栽培を行い、家庭菜園ならぬ職場菜園を普及させ、緑地強化を進める
- ・ まちの至る所に給水スポットを設け、水筒の持ち歩きを推奨し、ペットボトルゴミのないまちにする

【Dグループ：参加者6名】

■社会

- ・ 札幌発のIT企業をもっと増やし、最先端のまちへと変貌させる
- ・ テレワークの導入で誰でも場所を問わず、自分らしく働ける環境を整える
- ・ 落書きされた箇所を減らすために、各町内会に落書き落としのためのグッズを無料で配布する
- ・ 自転車の盗難防止のために、無料駐輪場がまち中に確保されている
- ・ どこにも段差がなく、車いすの人や高齢者の方が移動しやすいまちづくりをする
- ・ スマホをかざすだけで、画面内の全ての日本語が指定された外国語へ翻訳されるアプリを札幌発で開発

■環境

- ・ 電柱の地中化を進め、どこを切り取っても写真映えるまちにする
- ・ 排気ガスが出ない電動バイクの普及率を高める等、環境に配慮した移動手段を整備する
- ・ まちの中に無人で中古品の物々交換が行われる場所を設けて、リユースの推進をさせる

■スポーツ健康

- ・ サバイバルゲーム場や道具を扱う店が増え、インドアの人でも運動しやすくなる
- ・ 全ての公園で6:30からラジオ体操を行い、お年寄りが元気なまち

■経済

- ・ ショップやコンセプトカフェが増え、アニメや漫画好きも楽しめるまちにする
- ・ 大通の大型ビジョンで株価が24時間投影されて、世界経済への関心を高める
- ・ 優勝賞金は100万円の「学生ビジネスコンテスト」を月に2回開催し、起業支援を充実させる
- ・ 自動運転による流通網を拡大し、荷物の輸送料が下がることで、商品の物流費を削減する

【Eグループ：参加者5名】

■経済

- ・ 自然を活かしたテーマパークを南区に作り、まちの中心部だけではなく札幌近郊の観光スポットを増やす
- ・ 自然豊かな南区でサバイバルゲーム場をつくり、南区への訪問者数を増やす
- ・ 札幌ドームでスポーツだけではなく音楽や芸術、アニメといった広義の文化系イベントを開く
- ・ 仮想通貨やブロックチェーン技術を使い、デジタル資産を市民にも扱いやすくする

■環境

- ・ LGBTQや障害者も含めた、あらゆる人々が交流を持てる空間やコミュニティを作る
- ・ タイやロシアなど、北海道に愛着のある国々の言語も対応した公共交通機関の表記を整える
- ・ 子供を産み育てやすいように、ベッドやおむつなど必要なものなどが札幌市から支給されるようにする
- ・ 登山者がクマ等の野生動物と接触しづらいように、自然の中に緩衝地帯を整備する

【Fグループ：参加者5名】

■社会

- ・ 自転車の盗難防止のため、ポロクルの普及を進めつつ、駐輪場の充実と地下利用を進める
- ・ 良いまちづくりアイデアには支援金を出し、若者がアイデアを実行に移すきっかけを与える
- ・ スキー場でスポーツするだけではなく、グレンデを活用した特産品キッチンカーや学生キッチンカーで、グルメも楽しめる場にする

■環境

- ・ クマやシカのお肉を提供する飲食店を支援することで、ジビエを札幌特有の文化にしていく
- ・ 2030年には再生可能エネルギーを使った電力供給で、全体の50%を賄うようにする
- ・ スキーやスノーボード等の貸し出しも、傘レンタルのように手軽にできるようにしていく

◇ワークショップ当日の様子



第 18 回ワークショップ 経専北海道観光専門学校

令和 4 年 11 月 1 日（火） 13:30-15:10

テーマ：私たち・札幌市が、2030 年に達成すべき（達成したい） まちづくりのアイデアを考えよう

【A グループ：参加者 4 名】

■ 社会

- ・ 子育てグッズの支給や支援金の給付等、子育て支援を強化し子どもを持つことへのハードルを下げる
- ・ 学費や入学金の免除対象者を増やして、子育ての負担を軽減する
- ・ 給与見直しによって安定した保育士確保を実現し、待機児童を減らす
- ・ 子どもを育てる側の不安やストレスを軽減のための居場所を作り、虐待予防につなげる
- ・ スポーツクラブを増やして、スポーツ選手の育成に力を入れる
- ・ おもちゃ屋や体験教室、図書館、学校、公園、テーマパークなどを増やし、子どもが楽しめる機会や場所をたくさん作る
- ・ 札幌市内の多くの店舗で、盲導犬が入れるようにする
- ・ 街灯を増やすことで、市民や観光客が夜でも過ごしやすい治安の良いまちをつくる

■ 環境

- ・ 自然災害時は、スマホに避難情報やハザードマップが自動で送信されるようにする
- ・ 利用者の多いツイッターやインスタグラムを活用し、札幌市公式アカウントから災害時の情報発信を行う
- ・ 自然災害時には、正しい情報を素早く伝えるために、スマホの活用を進めていく
- ・ 補助金や支援金を給付し、耐震構造や免震構造の建設を推進する
- ・ 札幌市の防災グッズの無料配布により防災意識を高めて、自然災害に負けないまちづくりを進めていく

【B グループ：参加者 4 名】

■ スポーツ・健康

- ・ 選手村の部屋の内装を北海道の木を使い、おしゃれでサステナブルなデザインにする
- ・ 選手村の部屋からの景色をきれいなものにするために、イルミネーションでライトアップする
- ・ 選手村にサウナや温泉を設けて、競技関係者がリラックスできるようにする
- ・ 自然を生かしたアロマセラピーで、競技場にいる人々がリフレッシュできるようにする
- ・ 試合で勝利した後は、「札幌クラシックビールを氷のグラスに入れて乾杯する」のを文化にする
- ・ スポーツ選手には、ストレスを解消させる札幌や北海道の食材を使った美味しい食事を提案する

■ 社会

- ・ 「道東の釧路線」、「道央の函館線」両高速道路を延伸する
- ・ 海外の航空便を増やし、札幌と海外の行き来を容易にすることで観光客を増やす
- ・ 札幌の歴史や文化に興味を持つ外国人に向けて、パッケージツアーをつくる
- ・ 南千歳での乗り換え時間を短縮して、札幌でスキーをしてご飯を食べる時間の余裕をつくる
- ・ オリパラ大会時に、札幌から帯広へのシャトルバスや JR の増便を推進していく
- ・ バスや JR の除雪問題を解消のため、大学の運動部と連携し、トレーニングとボランティアを一緒にした新たな取り組みをスタートさせる
- ・ 地下鉄の放送アナウンスの男女平等など、「公共施設の平等性」という観点から札幌独自の仕組みをつくる
- ・ 色盲や色弱者向けのアプリケーションを札幌で開発する
- ・ e スポーツのゲーム設定で、色盲や色弱者向けに色彩設定の技術活用を進めていく
- ・ 風景にスマホをかざすと、名前や名称がいろんな言語で表示するシステムをつくる

【C グループ：参加者 4 名】

■ 社会

- ・ LGBTQ への理解が進むように、チカホでのイベントや広報周知活動を行っていく
- ・ 市民税の使い道見直しを進め、教育費に回すことで英語教育のハードルを下げる
- ・ JR の「HOKKAIDO LOVE!6 日間周遊バス」をバスでも実施する
- ・ シングルマザー家庭支援のため、サポートが受けられる第三の居場所を提供する

■ 環境

- ・ フードロスに削減のために、余った食材を札幌市主導でアフリカやアジアの貧困地域に寄付をする
- ・ 道内地産地消を盛り上げるため、飲食店ごとに食材のお題を与えた「道内食材 地産地消フェア」を行う
- ・ ごみの処理状況を市民に積極的に開示することで、ごみ削減の意識を札幌市民に持たせる

【D グループ：参加者 4 名】

■ 社会

- ・ 「もったいない」を減らし、フードロス削減に意欲的なまちにする
- ・ 安楽死/同性婚などが認められ、多様な価値観が認められる社会にしていく
- ・ 視覚障がい者の方には補助金を給付し、人工網膜の利用率を高める
- ・ 国際線の直行便を増便させ、海外との行き来を容易にし、札幌のグローバル化を進めていく
- ・ イベント促進やおしゃれな店を増やし、海外への情報発信を進めることで外国人観光客を誘致する
- ・ 札幌、北海道をあげてディズニーランドに勝るテーマパークを作り、魅力的な観光スポットにする
- ・ ピクトグラムや手話フォンなど、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを推進する
- ・ 飲食店や公共施設での外国語の表記を増やす

■スポーツ・健康

- ・ 老若男女問わず一緒にスポーツを楽しめるイベントを開き、全世代で健康な体づくりを進めていく
- ・ 社会人向けのサークルを増やし、あらゆる世代が関われる範囲を広げていく
- ・ まちをあげて、早寝早起を促進し、「生産性の高いまちづくり」を推奨する

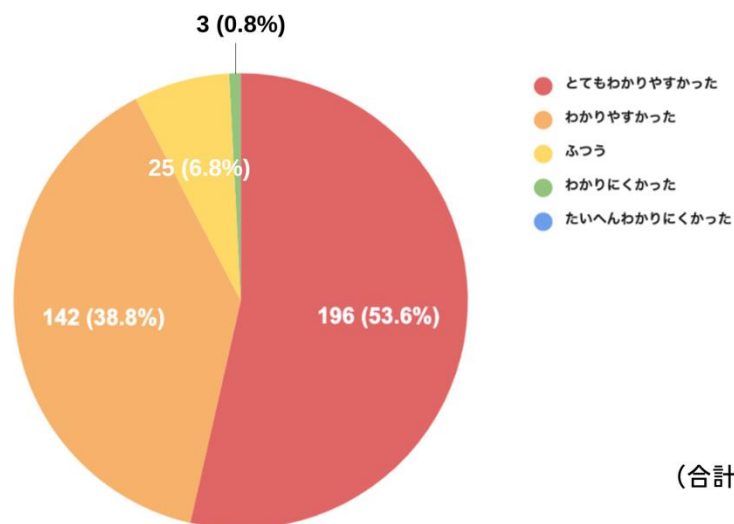
◇ワークショップ当日の様子



3. 各ワークショップ アンケートの傾向

(参加総数 391 人のうち、366 人からご回答いただきました)

問1. 冬季オリンピック・パラリンピック招致についての情報は、理解しやすかったですか？



問 2. 問 1 について、どのようなことが理解しやすかったか、理解できなかったかをご記入ください。

★理解しやすかった

- ・予算や財源の話は具体的で分かりやすかった。(55)
- ・お金の動きなどが細かく知れて、どのようなメリットがあるのかがわかった。(14)
- ・税金が使われないことを初めて知り、安心した。(7)
- ・予算の内訳を知ることができてよかった。(5)
- ・東京オリンピックより経費がかからないことがわかった。(5)
- ・予算を見て、オリパラを実施したらいいのだというポジティブなイメージになった (2)
- ・お金に対しての不安が解消された (1)
- ・必要経費など今まで詳しく知ることが出来なかった部分が理解しやすかった。(1)
- ・財政負担の内容や、社会への影響についての具体的な内容が分かりやすかった。(1)
- ・経済合理性があると思った (4)
- ・札幌市でオリンピックをすることは経済効果に大きくつながるということが理解できた。(2)
- ・オリンピックの経済効果が具体的な数値で示されていてわかりやすかった。(2)
- ・オリパラ招致をしたい理由、目的、メリットを知れた。(30)
- ・そもそも札幌が冬季オリパラの招致をやっていることを知れた。(7)
- ・現在の誘致の段階を知り、今後の誘致のためにどのような案を出したらいいのかがわかった。(6)
- ・オリンピックは今後の札幌市とどのように繋がるかの説明がとてもわかりやすかった。(5)

- ・オリンピック・パラリンピック招致をして札幌をどのような街にしたいかということ。(3)
- ・オリパラを開催するにあたっての札幌の課題について知れた。(3)
- ・他の候補地はどんなところがあるのか、どんなまちが求められているのかを理解できた。(2)
- ・人口が減少するという懸念がオリンピック誘致によって抑えられる見込みがあるという点。(1)
- ・なぜオリンピックを行うことで人が集まるのかについて理解しやすかった。(1)
- ・なぜ2030年に札幌に招致する必要があるのかがわかった。(1)
- ・冬季オリンピック・パラリンピックに関する開催概要の説明が分かりやすかった。(8)
- ・大会の構成や開催計画を理解できた。(7)
- ・東京オリンピックで出てきた疑問についての解決・理解がしやすかった。(6)
- ・全体の説明を通して、札幌でのオリンピックの規模感が伝わってきてよかった。(2)
- ・具体的な目的などが、分かりやすくとても理解できた。(2)
- ・オリンピック/パラリンピックに向けての様々な活動の内容がわかった。(2)
- ・前回札幌でオリンピックを行った際の状況と今回がどのような違いがあるのかを理解できた。(1)
- ・札幌オリンピックに対する地元民からの反応や、理解のされ方がよく分かりました。(1)
- ・会場設置計画や施設利用についてよくわかった。(1)
- ・新たに施設を増設するのではなく既にあるものを改修して使ったりするので費用がそこまでかからないことがわかった。(1)
- ・札幌だからこそスポーツをどのように楽しむかどのように強化するか理解できた。(3)
- ・前回の札幌大会と今回の札幌大会のまちづくりの違いについて詳しく知ることができた。(3)
- ・オリンピックを理由にまちづくりをするってところが分かりやすかった(3)
- ・オリパラ誘致に関して、札幌の悪いところ、まだ足りていないところが理解できた。(2)
- ・2030年がどんな札幌の未来を想像して開催しようとしているかということが理解できた。(2)
- ・2030年に向けて札幌市がどのようなことを目標にしているのか。(1)
- ・具体的なビジョンや例を挙げてくださったため、それぞれの内容の理解がしやすかった(1)
- ・札幌が自然あふれる街にすることや環境づくりを促進すべきということを学んだ。(1)
- ・札幌が若者の意見が聞きたいということが理解できた。(2)
- ・専門用語などを使わないため一般の人にもわかりやすく、スライド説明がわかりやすかった。(20)
- ・写真やイラストが入ったパワーポイントでの説明よかった(19)
- ・グラフや図などが多くて数値的に理解できて、見やすくてよかった(17)
- ・手元にも資料があったので理解しやすかった。(11)
- ・プレゼンの内容に予算や東京五輪との違いなどがあって、反省点などがわかりやすかった(1)
- ・考えているニュアンスも未来性も感じることが出来た。(1)
- ・テーマごとの例が具体的で想像しやすかった。(1)
- ・司会進行役の方がいたおかげでとてもわかりやすかった。(1)
- ・疑問点への回答形式で話が進行されていったことがよかった(1)
- ・これからの札幌にどのようなメリットがあるのか実際のデータと一緒に説明があって理解しやすかった。(1)

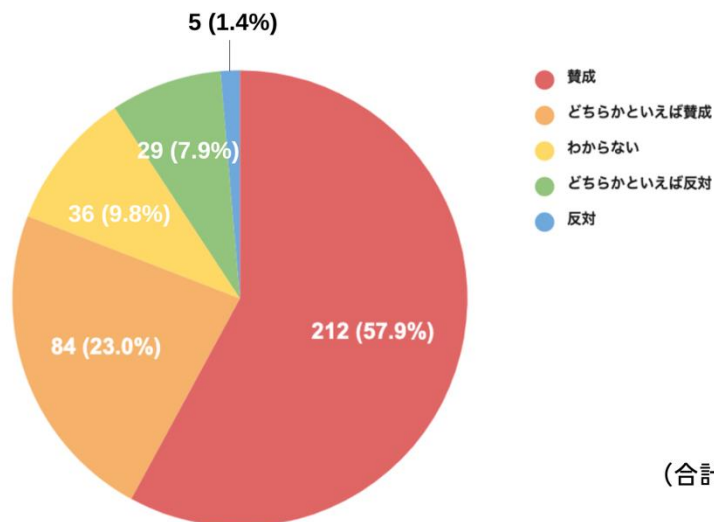
- ・アンケートの数値が載っていたので説得力があつてよかった。(1)
- ・開催されたときにどこの施設使ってこれくらいの予算というのが理解しやすかった(3)
- ・新しい施設を作らずに負の遺産を無くすことが理解できた(1)
- ・ボランティア・医療従事者のかかわり方を具体的に知ることができた。(2)
- ・実際に招致した際に医療従事者がどのように関わっていくのかがわかった。(2)
- ・自然を壊さずにオリンピックを行うことが自然に優しいと思った。(2)
- ・環境問題など、解決できる方法を考えるのが難しかった。(1)
- ・オリンピック招致によるレガシーを理解しやすかった。(2)
- ・大会ビジョンをターゲットとレガシーに分割して掲げているのが理解しやすかった。(1)
- ・外国人もわかりやすい説明だった(1)
- ・外国人に向けた環境づくりが必要だと理解した(1)
- ・ネットを使って調べたりすることで、海外と日本の違いなどが理解しやすかった(1)
- ・バリアフリーの取り組みや開催に必要な資金等がわかりやすかったです。(1)
- ・地産地消のことや、サブスクリプションを理解することが出来た。(1)

★理解しにくかった

- ・金額などの根拠が分からなく、経済的な負担がわからなかった(4)
- ・もっと具体的な人員にかかる予算の話を知りたかった(1)
- ・費用のところが「大丈夫です」と言われても、あまりピンとこなかった。(1)
- ・経費や予算に関することが事前知識も少なく、専門的だったので理解しづらかった。(1)
- ・夏季と冬季の比較が単純な人数のみだったため季節による違いについての経済効果についてもう少し情報が欲しかった(1)
- ・金銭的にオリンピックのいいところだけでなく、悪いところも聞きたかった。(1)
- ・具体的にどの分野が大きく経済的な影響を享受できるのかをしれたらよかった。(1)
- ・なぜ札幌でやるのかの部分があまり理解できなかつたと感じる(1)
- ・目的や開催することで得られる利益などよく理解できたが、札幌市としての視点よりも市民にとってなにが利益となるのかもっとわかりやすく伝わると良いなと思った。(1)
- ・誘致に反対の理由がどのような理由なのか気になりました。(1)
- ・いつやるのかが分からなかった(1)
- ・健康寿命の延伸や ICT を利用したシームレスな環境移動の構築をどのように実現させていくのかといった具体的な方策を提示して頂けたらよかった。(1)
- ・招致についてのワークショップというより、スポーツ医学と札幌の今後について話したイメージが強かった。(1)
- ・情報が1枚のスライドに集まりすぎていてわかりにくかつたように感じた(1)
- ・明確で無い所もあったので、今日の話し合いで出た疑問について知りたい。(1)
- ・データのグラフを読み取るのが難しかった。(3)
- ・パワポが小さい(1)

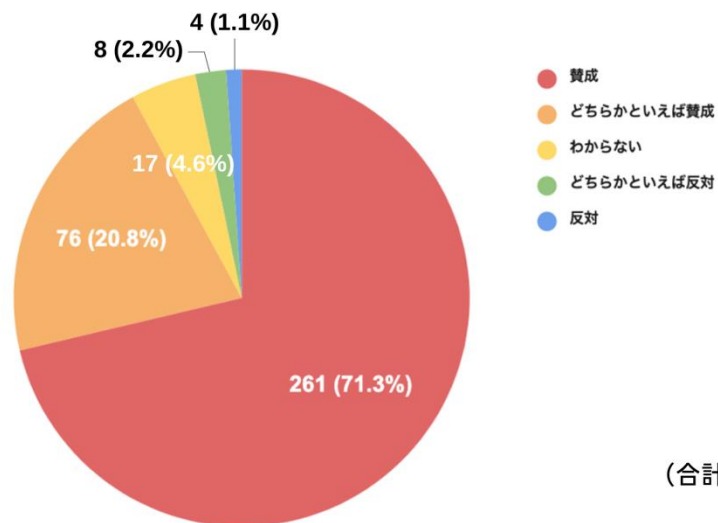
- ・結局何を話せばいいのかが分からなかった (1)
- ・話したいことはわかったが主題がわかりにくかった (1)
- ・少し言葉が難しいことがあったので、人によって伝わりにくいと感じました (1)
- ・オリンピックを開催するにあたっての、問題点が沢山あること。(1)
- ・オリパラ誘致の反対者が思ったよりいたこと。(1)
- ・その中で運動不足解消として音のなる階段を作るということが上がり楽しく運動ができるということは素晴らしいことだと感じました (1)
- ・新型コロナウイルスの対策を知りたいなって思いました (1)

問3. 今回のワークショップに参加する前は、
札幌市が冬季オリンピック・パラリンピックを開催することをあなたはどのように思っていましたか？

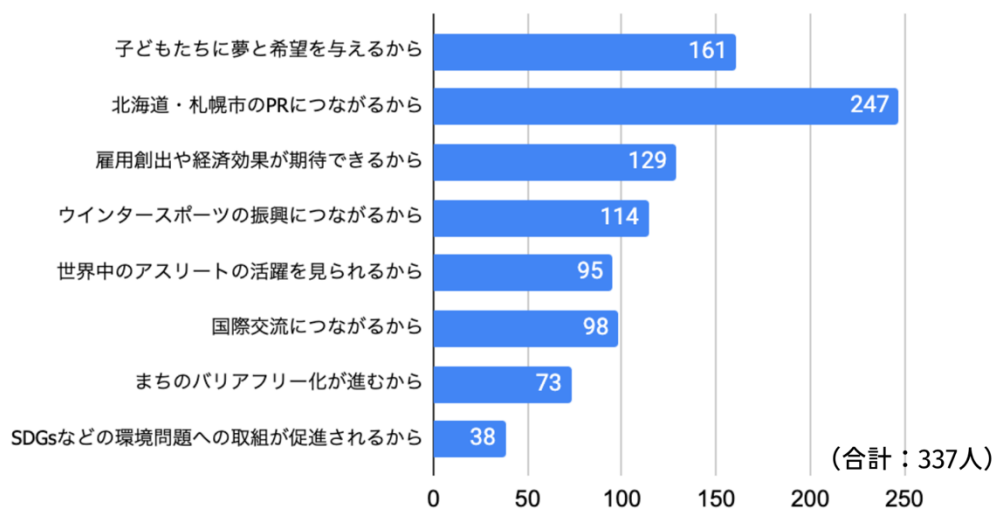


(合計：366人)

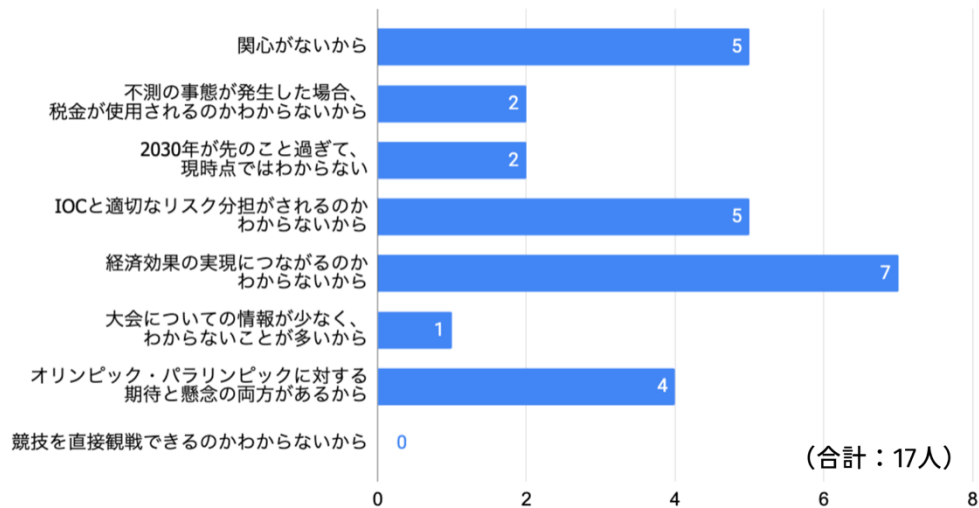
問4. 今回のワークショップに参加して、
札幌市が冬季オリンピック・パラリンピックを開催することをあなたはどのように思いますか？



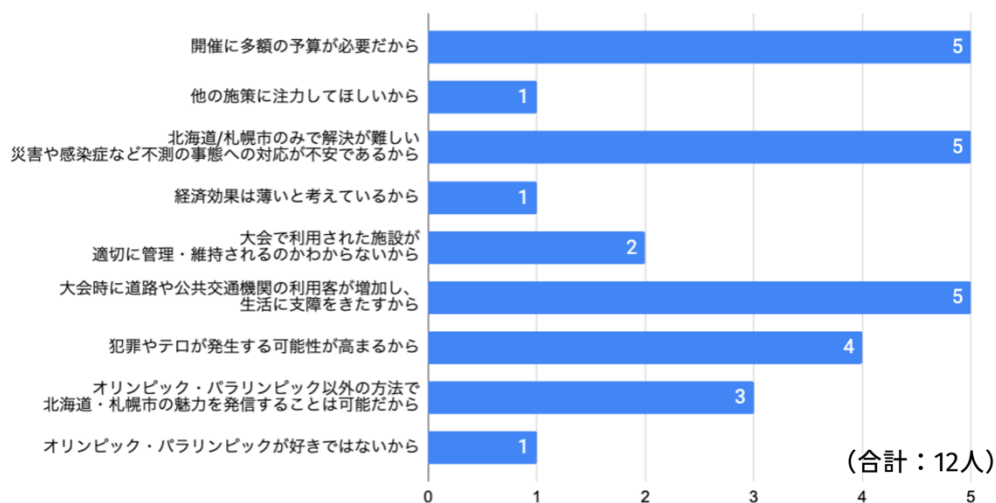
問5. 問4で「賛成、どちらかといえば賛成」と回答された方にお伺いします。
その理由について、次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(複数回答可)



問5. 問4で「わからない」と回答された方にお伺いします。
その理由について、次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。（複数回答可）



問5. 問4で「反対、どちらかといえば反対」と回答された方にお伺いします。
その理由について、次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。（複数回答可）



問6. 本日のワークショップの感想をご自由にお書きください。

- ・アイデア出しが楽しかったです。（4）
- ・札幌は好きなので、札幌について考えるのはたのしい機会になった。（3）
- ・なかなか貴重な体験をすることができ、勉強になりました。（2）
- ・グループごとにオリジナリティあふれるアイデアが出ていたのが印象的でした。（2）
- ・短い時間の中で尖ったアイデアを出さなくちゃいけないのが難しかった。（1）

- ・すごく難しい話が多かった (1)
- ・時間が短く、あまり有意義なワークショップにならなかった (1)
- ・普段喋らない人と喋れてよかった (1)
- ・オリンピックを抜きにして今後の札幌市がより住みやすい街になるために自分たちにもなにかできるんじゃないかと思うことができるいい機会になりました。(3)
- ・このワークショップにて自分の能力や人前で話せることなど知ることが出来た。(2)
- ・楽しいグループワークでいろいろな意見を聞くことができとても面白かったです。(2)
- ・オリンピック招致についてやまちづくりにおける課題について考えることができた (1)
- ・オリンピックの費用のことなんて考えたことがなかったので学びました。(1)
- ・正直、スポーツに全く興味がなくて、オリンピックに対して前向きな考えが持てないところがあった。(1)
- ・短時間でコンセプトを考える今回のようなワークショップに参加したことがなかったため、とても新鮮でした。(1)
- ・他大学のファシリテーターさんとの交流や大学生との交流で知識が広がりました。(2)
- ・気づかぬところが多くありまだまだ知らないテーマを知ることができましたが、テーマが大きすぎて話しにくかった。(1)
- ・普段関わらない方のお話や考えを聞いて、とても面白かったし楽しかった。(70)
- ・自分の意見がまとまっても思っただけで発言できてすごく楽しかったです。(8)
- ・普段滅多に考えないことだけど、自分の頭で考えるいい機会になったし、なによりも他の人の意見が斬新で聞いていてとても面白かった。(3)
- ・他のグループの案が具体的で面白かった。(3)
- ・普段とは違った目線で議論でき、新しい問題点や課題を見つけることができた。(2)
- ・身近に考えることでイメージしやすく楽しい討論になりました。(1)
- ・一つの単語の理由を言葉に出すと、そこから新たな言葉が見つかることが気持ちよかった (1)
- ・具体的な意見を出すのがとても難しかった (11)
- ・医大だけではなく様々な大学生の人と対面でワークショップを設けられれば色々な意見、例えば経済面の視点や都市開発の視点などその人が専攻している分野での意見を聞いて面白いと思う。(1)
- ・医療者としての五輪への関わり方、五輪が札幌にどのような効果をもたらすかについて、様々な意見を共有でき、大変勉強になりました。(2)
- ・今後の招致活動についても注視しながら、開催された際に自分ができることを、少しずつ考えながら、医療者に向けた学習に取り組んでいきたいと思う。(2)
- ・今後は医療従事者としてアスリートと関わっていきたくて考えている。(1)
- ・楽しくオリンピックについて考えられたので脳にとっても入ってきました。(1)
- ・僕もボランティアをしたい。(1)
- ・札幌がもっと豊かにするにはさまざまな環境やスポーツイベント、まちづくりを開催するなどして、やっていこうと思った。(1)

- ・まちづくり促進のための色々な事を知れて自分もなにか行動していこうと思いました。(1)
- ・改めて札幌市について考えるきっかけとなって良かったです！(13)
- ・札幌のまちやまちづくりの理想を想像するのが楽しかったです！(10)
- ・オリンピック・パラリンピック招致について深く知ることが出来ました。(1)
- ・札幌冬季オリンピックの招致について深く学ぶことができた。(1)
- ・改めて札幌の問題点などを考えることができたのでよかったです。(5)
- ・札幌でオリンピック開催できると、より札幌が盛り上がると思うので楽しみになりました。(4)
- ・札幌のことまだよくわかっていないことがわかりました。(2)
- ・札幌市が将来に向けて、どのように行動していくべきか、明確になったと思う。(2)
- ・未来の札幌市がこうなって欲しい！と思うことが経済について考えるきっかけになったので勉強になった。(2)
- ・札幌にはご老人の方から障がいを持つ方などさまざまいる中で、それぞれが札幌に住んでいてよかったですと思われるまちが1番いいなとも思った。(1)
- ・食や自然以外にPRできる部分や進化させる部分を考えるのが難しかったです。(1)
- ・将来は私たちが札幌を牽引していくことになるので、興味関心をもって生活したい。(1)
- ・今回のワークショップを通して札幌には改善点がたくさんあることがわかったので、札幌オリンピックを通して札幌がよりよいまちになると良いと思った。(3)
- ・札幌オリンピック開催するためのアイデアができてよかったです。(1)
- ・札幌2030大会についての認識が改まりました。(1)
- ・札幌市にあったらいいとみんなが考えているものを知ることができて共感できた。(1)
- ・こうだったらいいのにと思っていたことが反映されるかとも思い、嬉しくなった。(1)
- ・自分が関わっているよさこいもこのオリンピックに何か繋がるのかとも思ったらとても楽しみになった。(1)
- ・いままであまり触れたことのなかったテーマだったので、面白かったです。(1)
- ・食や自然以外にPRできる部分や進化させる部分を考えるのが難しかったです。(1)
- ・どのようなものかわからないまま参加したが、行政や学生が意見を言い合えるいい機会の場だと感じた。(2)
- ・話を進めて行くと、かなり現実味のある内容が出てきて、面白かった。(1)
- ・意見を出す中で、地域特有の悩みがあることが分かった。(1)
- ・札幌らしさについて考えられたことは良かったと思う。(1)
- ・アイデアを出すことによって、何が足りなくて何が足りているのかということを知ることができ、何が必要なのかということもわかったのでこれらの意見を大切にしていきたい。(1)
- ・付箋を用いて端的な意見の中で議論し、分野ごとの答えを導き出すことは、アイデアも出やすく、良い方法だと思った。(1)
- ・理想の街は何かを真剣に考えた事が初めてだったので、今自分が探している札幌を客観視するのが新鮮で、学びが多かった。(1)

- ・ブレインストーミング的なものが楽しかったです。(1)
- ・キーワードが難しくオリンピックと直接関係ない気がしているものもあった(10)
- ・もっとスポーツ医学の話聞けるような講話が聞けてもよかったかなと思った。(1)
- ・札幌2030大会で予想されるデメリットについての解決策やデメリットを上回るようなメリットについてのワークショップの実施が必要だと思った。(1)
- ・事前課題から当日のディスカッションをしたほうが良かったと思う。(1)
- ・オリンピックが開催されれば何よりあまりこのような機会がなかったので、勉強になりました。
- ・オリパラのことを知らなかったので知ることが出来て良かった
- ・各グループ二つずつの観点で意見を出し合ったが、観点を一つに絞っても良いのかと思った。(1)
- ・四つの観点はそれぞれが独立したものとして考えると同時に、複合的に考えることもできるのではないかと感じたので、組み合わせた時にどんなアプローチがあるのか、ということについても話し合えたら、よりワークが盛り上がったかもしれないと、素人ながら感じました。(1)
- ・将来のことなので漠然と想像するしかなく、難しいと感じる部分があった。(1)
- ・もっと面白いアイデアを出せればよかった。(1)
- ・オリンピックを開催することによる影響について知ることが出来て面白かった。(1)
- ・札幌の良さや改善点がたくさん出て、楽しかった。(1)
- ・今まで札幌オリンピック・パラリンピックについてあまり詳しいことがわからなかったが、深く知ることが出来て良かった。(1)
- ・オリンピックのことを知ることができ、様々な考えが聞けてためになった。(1)
- ・2030年と私たちが社会人になっている時に行われる経済を振興させるイベントについて知ることができてよかった。(1)
- ・札幌オリンピック誘致について詳しく知れて良かったです。(1)
- ・オリンピックについて知らないことばかりだったので、今回詳しく知るきっかけができてよかったです。(1)
- ・グループワークでオリンピックについて、もっと深く知ることができて良かった。(1)
- ・オリンピックについて考えることがなかったので、とても難しかったです、たくさん意見を出すことができました。(1)
- ・札幌オリンピックの招致を前向きに応援したくなった。また、地方創生に興味が出てきた。(1)
- ・進行で、アイデア出しやアイデアを広げることがしやすかった。(5)
- ・2030年に今回出たアイデアがもし実現したらと考えるととてもワクワクする。(2)
- ・お話が上手で、スムーズでまとまった議論ができた。(3)
- ・あまりオリンピック・パラリンピックの知識がなかったけど、今回のワークショップを機にさまざまな事を知れる等、考えるいい機会になったので、楽しかった。(1)
- ・オリンピック招致について具体的な話を聞いて面白かったです。(20)
- ・オリンピック・パラリンピックの招致について深く考えたことがなかったため、あまり経験できないいい体験であった。(1)
- ・みんなが自分の意見を発表できるように回してくれ、なにより楽しかったです！(3)

- ・進めやすくするためにヒントを与えてくれ、具体的な方向性を見出ししてくれていたのがやりやすかったです。(2)
- ・オリンピック・パラリンピック誘致と 100 のアイデアによって北海道全体がより充実した土地になったら嬉しいと思う(2)
- ・意見を否定せず出せて楽しかった意見がなかなか出てこない時に引き出してくれたのですごく助かった！(2)
- ・話しやすい環境にしてくださってやりやすかった。(1)
- ・学生だったので、話しやすくとても良い時間を過ごせた。(1)
- ・色々な意見が出て、全部は叶えられないと思うけど、少しでも実現すればいいなと思った。(1)

問7 ワークショップの運営や進め方に、もし意見があればご自由にお書きください。

- ・ひとグループの人数はこの位で丁度良いと思ったけれど、グループがもっと増えたら面白そうだと思います。(1)
- ・わたしたちにハンディキャップを持った人たちなどさまざまな目線からの意見を求めていたが、私たちに求められてもエアブなしにしかならないので今回のようなワークショップを意見が欲しい人たちを対象に開けばいいのに…と思った。(1)
- ・とても手際が良くわかりやすい説明をしてくださいました。(1)
- ・時間はしっかり確保し、説明は最小限に留めるといいかと思います。(1)
- ・学生の方も一緒に考えアイデアをだしていただけたのでとてもやりやすかったです。(1)
- ・スタッフの方々がわかりやすく導いてくれたので順調に進めることができました。(1)
- ・スムーズな司会でわかりやすくとてもよかった。(6)
- ・もう少し話し合いの時間を取れば、さらに深い意見が出せたと感じた。(2)
- ・的確な時間配分をして欲しい…時間に対して内容が濃すぎる気がした。(2)
- ・私達のアウトプットが利用される感じはしなかった。(1)
- ・スタッフの方も親切で話しやすかった(4)
- ・進めるところは参考通りすすめ、話し合いが盛り上がっている時に無理に止めることはなかったのでスピード感もちょうど良かった。(2)
- ・話すテーマについて、どのグループがどれかとかを決めていても良いのではないかと思った。(2)
- ・またなんらかのワークショップをやってほしいと思った。(2)
- ・もう少し考える時間が欲しかった、90分だと短いように感じた。(10)
- ・もっとカチカチな雰囲気やらなければいけないと思っていたが自由な感じでよかった。(2)
- ・上辺だけでなく実情もお話して下さったのでやる気が出ました。(1)
- ・時間は足りなかったが、色々な人のアイデアに触れることが出来、自身の成長にも繋がった。(2)
- ・若い人たちがたくさんいて話しやすかったし、明るい人たちだったので楽しかったです！！(1)
- ・ワークショップ開催の目的が市民の意識高揚につながったと感じた。(1)

- ・普段、こうなって欲しいとたくさん思っているはずなのに、いざという時になかなか案が出てこなかったの
で、もっと自分自身や周りを気にして生活していきたいと思った。(1)
- ・自由に意見を交換し、付箋を好きに貼っていくスタイルがとても楽しかったです。(1)
- ・思った以上に時間がかかってしまった。(3)
- ・聞く時間が少し長かった。(2)
- ・個人ワークなど時間がカツカツな場面があった。(2)
- ・キャッチコピーを考える時間がもう少し欲しかった。(2)